第１回みどりの交流広場

報告書

平成 25 年 2 月 17 日

主催：財団法人国際花と緑の博覧会記念協会
協力：生き生き地球館
後援：大阪府、大阪市

目　次

事業実施の様子、開会挨拶

１．事例発表会

発 表 ①　「フラワーカーペット　植物を通した学びや社会参加について」 …… １
大阪信愛女学院短期大学 寺田裕美、細谷ゆみ

発 表 ②　「埋立地でゼロから森づくり～１本の木からはじめよう～」…… ５
NPO 法人共生の森 吉岡孝夫

発 表 ③　「服部緑地の利用促進と地域活性化」…… ９
一般財団法人大阪府公園協会 服部緑地管理事務所　柿谷武司

発 表 ④　「学校ビオトープ『生態園をつくろう！』」…… １４
毎日新聞大阪本社 大島秀利

発 表 ⑤　「堺市民の森づくり」…… １８
堺千年の森クラブ 雪村道生

発 表 ⑥　「地域にゆかりのある『菜の花』でまちを彩る
菜の花の散歩道』活動について」…… ２３
鶴乃茶屋倶楽部 藤原尚之

発 表 ⑦　「『新・里山』都市のど真ん中の公開緑地で
開する人と自然のつながり」…… ２８
積水ハウス株式会社 畑明宏

発 表 ⑧　「ゆるやかな繋がりの中での花の散歩道」…… ３５
ガーデンシティーコープ金剛東すみれ会 永松康子

発 表 ⑨　「自然体験観察園調査隊の成果『自然体験観察園の生き物たち』」
「鳥が運ぶみどり、人が育むみどり…大阪市東部域実生苗調査から」…… ４２
地球館パートナーシップクラブ 桝元慶子

発 表 ⑩　「平成２４年度はなまつり」…… ４８
ヨーロッパ通り周防町商店会　松村博、野呂百合子

講　　評　近畿大学総合社会学部 専任講師 田中晃代…… ５２

２．パネル展示

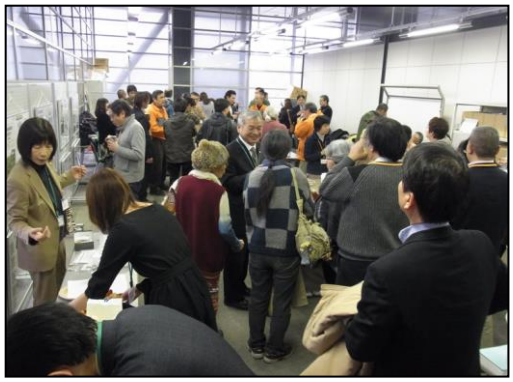
①大阪信愛女学院短期大学　②NPO 法人共生の森 …… ５５
③大阪府公園協会 服部緑地管理事務所　④毎日新聞大阪本社 …… ５６
⑤堺千年の森ｸﾗﾌﾞ　⑥鶴乃茶屋倶楽部 …… ５７
⑦積水ﾊｳｽ株式会社　⑧ｶﾞｰﾃﾞﾝｼﾃｨｰｺｰﾌﾟ金剛東すみれ会…… ５８
⑨地球館ﾊﾟｰﾄﾅｰｼｯﾌﾟｸﾗﾌﾞ　⑩ﾖｰﾛｯﾊﾟ通り周防町商店会…… ５９
⑪ﾁｬﾘﾃｨｰﾈｯﾄ森が好き！　⑫ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ団体 癒しの園芸の会…… ６０
⑬京都光華女子大学　⑭大和リース株式会社…… ６１
環境ボランティアサークル「ｸﾞﾘｰﾝｷｰﾊﾟｰ」
⑮福祉のまちづくり実践機構　⑯明治連合振興町会 阿波座南公園ﾋﾞｵﾄｰﾌﾟｸﾗﾌﾞ …… ６２
⑰尼崎南部ｸﾞﾘｰﾝﾜｰｸｽ　⑱城東区はなびとｺｽﾓｽﾀｯﾌの会…… ６３
⑲おおさか緑と樹木の診断協会　⑳とどろみの森ｸﾗﾌﾞ…… ６４

事業実施の様子

入口、受付周辺

事例発表会

パネル展示



交流会

開会あいさつ

財団法人国際花と緑の博覧会記念協会　専務理事　宮前　保子

皆さん、こんにちは。今、ご紹介いただきました宮前です。本日は朝早くから準備いただき、素晴らしい展示をしていただきました。

また、これからは、それぞれの団体から発表していただくことになっております。私ども花博記念協会が、こうした第１回のみどりの交流広場を開催を企画いたしましたのも、花博記念協会の理念である人と自然との共生を展開する各種事業を、皆様方と一緒になって進めたい、そして都市の中に花を、緑を、そして生き物たちがたくさん住むこの地球をということを目指しております。

そのためにも、今日は第１回ですけれども、来年、再来年と、この催しを続け、大阪だけではなく近畿、あるいは日本中の皆様と同じような活動をされている方々のネットワークが広がっていくことが非常に重要ではないかというふうに考えています。

今日は皆さまの素晴らしい発表をしていただいた後、近畿大学の田中先生にもご講評いただきます。どうぞ皆さん、これを機会に、それぞれの活動の幅が広がることを祈念しております。

それでは、最初に発表していただく方々から最後までおつき合いいただきまして、今日の成果をお持ち帰りいただければと思っております。

以上をもちまして挨拶に代えさせていただきます。どうもありがとうございました。

【事例発表会】

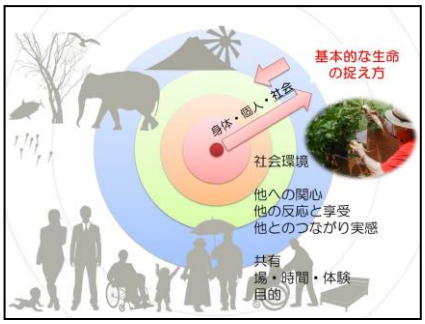
フラワーカーペット
植物を通した学びや社会参加について

大阪信愛女学院短期大学
寺田裕美、細谷ゆみ

【寺田】　ただいまご紹介していただきました大阪信愛女学院短期大学から参りました寺田と申します。

大阪信愛女学院は、すぐこの鶴見緑地公園の近くの鶴見区にあり、ここでは看護学科と子ども教育学科の学生に対し、園芸療法士のカリキュラムを設け、園芸療法士の育成に取り組んでおります。園芸療法士は、医療や福祉の分野の現場でリハビリや補完的な療法として、他の音楽療法、芸術療法、動物療法とともに現在、模索しながら現場で取り入れられているというような状況にあります。

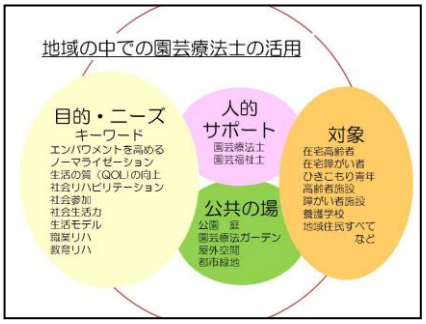
大阪信愛女学院では、看護科の学生に対し、特に患者さんとのコミュニケーションツールとして、患者さんの意欲の向上や、看護師さんと患者さん、その家族との相互の良き関係性を構築するということを目的に園芸療法を取り入れております。



現在医療では、私たちの体を医療行為だけで治すだけはなく、その人個人の価値観であるとか生き方、あるいは、その患者さんの社会的な背景や病や障がいがあるがゆえに起こってくる心の状況や社会的な状況までトータルにサポートを行う視点が起こっています。患者さんたちや私たちが健康に生きていくに当たって社会的な環境をどんなふうに整えていけばいいのか、人的な環境、自然環境、私たちが地域で暮らしていくときに、どのような社会的なサポートがあれば良いのか、そのあたりに園芸療法士というのがかかわっていけるのではないかというふうに考えております。

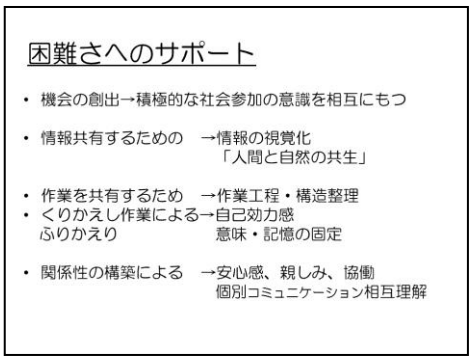
園芸療法士は医療や福祉の現場だけではなくて、地域の中でも活用でいていける可能性があるのではないかなということで取り組んでおります。主に対象としましては、

在宅の高齢者、在宅の障がいを持った方、引きこもりの青年、あるいは地域の方々のエンパワーメントを高める、ノーマライゼーション、生活の質の向上、地域の社会で生きていくための生活力をつけていく。こういったところに対して人的なサポートとして園芸療法士、園芸福祉士、そしてその場として公共の場、ここ鶴見緑地公園のような公園、あるいは園芸療法ガーデン、こういった場が人の心身の健康を支える地域の中でのサポート現場になっていくのではないかというふうに考えております。



今回、昨年、鶴見緑地公園で行われましたフラワーカーペットの事業に一緒に参加することになりました。このフラワーカーペットにつきましては、同じ鶴見区に知的の障がいの方々の施設があり、そこの方々とともに製作プログラムを行っていきました。園芸療法士の技術の１つとして、どんな病や障がいなど持ちながらでも一人一人の満足感が生まれるように園芸や植物を使いながらサポートしていくという技術が園芸療法士の技術としてあります。今回のお題は人と自然の共生ということでありましたので、これをどんなふうに理解して表していくのかというところで園芸療法士がサポートを行っていきました。

知的の障害を持つ人たちが、社会の中で社会参加をするに当たって、どんな困難さがあるのかということについて、私たち、学生とともに考え、まずは社会参加をする機会を創出する必要があるのであろうと。人と自然の共生ということが今回のテーマでありましたけれども、自然の共生という、その意味をどんなふうに一緒に共有をすればいいのかということで情報の視覚化ということを共に行いました。



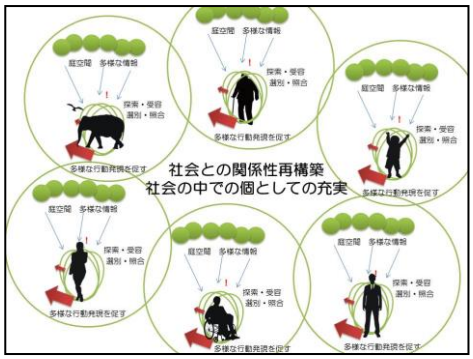
そして、フラワーカーペット、チューリップを使いながら絵を描いていきますけれども、そのデザイン画をつくるに当たって、その作業を構造化、整理をし、どんな人にも取り組みやすい工程として、繰り返し行うことで自己効力感、あるいはその意味や自然との共生の意味の記憶を固定していくというような方法を使ってサポートしていきました。

そして、フラワーカーペットの当日までに３回のワークショップを持ちまして、そ

の中で学生たちとともにマンツーマンのプログラムを組み、人間関係の構築と、個人個人の困難な部分にサポートし、一緒にデザイン画をつくり協働し、安心感が生まれ相互理解につながるようサポートしていきました。

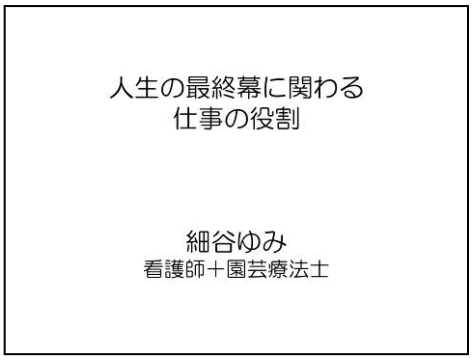
これが出来上がったデザイン画です、大阪信愛女学院の芸術の先生に、製作素材や最後のデザインの調整、統合ということを行っていただきました。

社会との関係性の再構築ということで、フラワーカーペットづくりを通し社会の中でどんなふうに、さまざまな障害や子供たち、あるいは高齢者の方、いろんな人たちが社会の中で一緒に活動していけばいいのかということについて考える機会となりました。



では、実際に園芸療法士として大阪信愛女学院を卒業した後に地域の中で、どんなふうに園芸療法を活用しているのかについて、園芸療法士の細谷ゆみさんにお話をしていただきたいと思います。細谷さんはベテランの看護師さんでありながら、園芸療法士の資格を修得されまして現在、ホスピスや高齢者のデイケア、さまざまな現場でサポートをされています。

【細谷】　私が園芸療法士を志そうと思ったきっかけは、病院の中で患者様が長い間、病の床に伏していらっしゃると、「空が見たい」「もう一度花が見たい」等と希望を語る方々にたくさん出会ったからです。園芸療法士になって、一番やりたかったことは､ホスピスで花を育てることでした。



現在、１週間に１回、ホスピスボランティアにいき、花を育てています。ベッドに寝たまま、起き上がることができない患者様が、ベッドごとベランダに出て花を見に来られます。ご家族が、「おばあちゃんは花が大好きで、見たいと言っているから連れて来たの」と、ベッドの頭側を高く上げて見えるように助けています。患者様は何も語ることはないのですが、じっと花を眺めていらっしゃいます。

また、花を自分で植えたいと希望された方もいます。先生とナースから許可の出た方と、身体的に負担のないように、車いすに座った状態で作業します。ご自分の好き

な花をご家族に準備してもらって植えます。ご病状はつらいだろうなと推測されますが、笑顔で花に語りかけながら手入れをされます。花は静かに咲いているだけですが、人に癒しと生きる希望を与える力のある存在だと感じています。また、家族の方も「花を見ると癒やされる」と言って眺めておられます。

訪問看護では、指定された時間の中で、お花に興味を持っておられる方と、ご自分の庭に咲いている花を押し花にして押し花絵額を作ったり、自分の庭でとれた材料でクリスマスリースを作ったりしています。一緒に作業する中で、花を介して会話が豊富になり、手先の運動や庭への外出の場となっています。また、作品が身近な関係者から話題に上がり、植物を介して関わる人々が癒しを感じています。

以上です。

【三谷】　花博記念協会の事業課長の三谷です。今日は一部、進行のお手伝いをいたします。

今の大阪信愛女学院さんのご発表なのですが、私ども、花博記念協会と一緒にやった事業のご紹介がありましたので、それを補則させていただきます。フラワーカーペットは、ちょうど、この建物の表でやらせていただいたものです。横 15m×縦５mの 75 平米、巨大なフラワーカーペットを信愛女学院の方々にお手伝いしていただいてつくりました。このフラワーカーペットというのは、富山県で球根を大きくするために捨てられてしまうチューリップの花びら、これを持ってきて使っているわけです。花びらがかわいそうとおっしゃる方は多くいらっしゃるんですが、そうではなくて再利用しているということをご理解いただければと思います。

今、園芸療法のお話がございましたけども、この件でお教えください。日本での効果、あるいは狙いについては今、お話がありましたけども、海外での事例というのは、いかがでございましょうか。

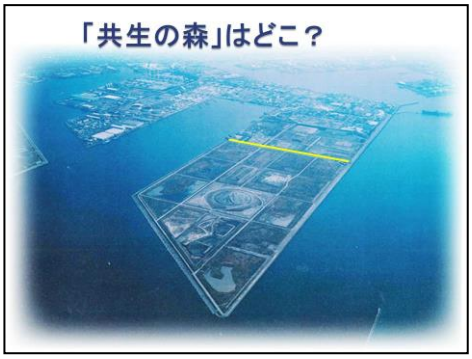
【寺田】　園芸療法士というのは、世界中にいらっしゃいまして、特に今アジアチームがとても活発に活動をしております。韓国、台湾、中国、香港のあたりの園芸療法士さんが、かなり密接に年に２回も３回もお互いに行き来をしながら各国の事例発表を行ったり、それぞれの生活の中で植物がどんなふうに私たちの健康に生かしていけばいいのかということについて情報交換が始まっているところです。

埋立地ゼロからの森づくり
１本の木からはじめよう

ＮＰＯ法人共生の森　吉岡　孝夫

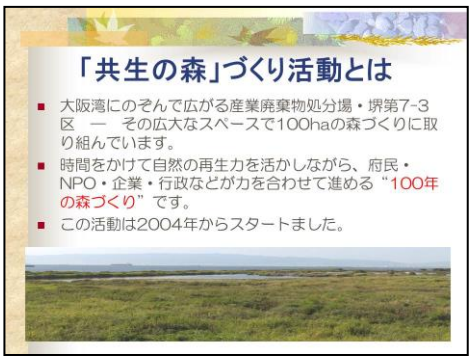
【吉岡】　こんにちは、共生の森スタッフの吉岡です。今日は「埋立地でゼロからの森づくり」という題で、共生の森の紹介と活動のお話をさせていただきます。

「共生の森はどこ？」皆さんは、どれくらいご存じでしょうか。パネルに展示しましたがまだ知らない方が多いと思います。「共生の森」は、大阪湾の中心、堺市の沖にあり大阪府が管理している産業廃棄物処理場にあります。一言でいえば埋立地です。この写真は「共生の森」の全景です。「共生の森」全体は、幅が約 1.1km、長さが約 2.3km、広さ約 100ha あります。どれくらいの広さかといえば、例えば甲子園球場約 26 個分、または大阪城公園（森ノ宮から京橋の間、大阪城を含めて約 106.5ha）とほぼ同じと思っていただければ結構です。

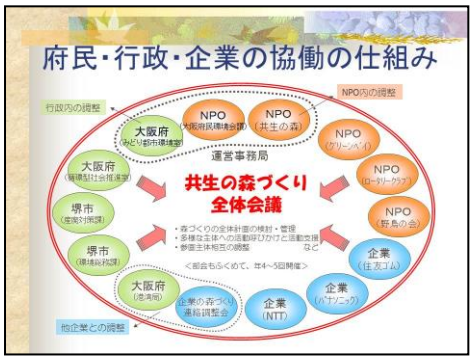


「共生の森はどんなところ？」は現地の写真です。一番上、やはり埋立地ということで何もありません。草が生えているだけです。大阪府の咲洲庁舎が遠くに見えます。二番目、天気が良ければ、西に淡路島・明石海峡大橋が見えます。三番目、北側は六甲山全山が見渡せ、麓には神戸の街並みが見えます。反対に東側は生駒山系、南側は金剛山から関空の臨空ゲートタワービルが見える非常に見晴らしのよいところです。皆さんが思っておられる「森」という感覚からは、ちょっと程遠いかもわかりません。これが現在の「共生の森」です。

「共生の森づくり活動」について説明します。私たちの森づくり活動とは、一言でいえば「産業廃棄物処理場」（私たちは負の遺産、またはマイナスの遺産と呼んでい



ます）その広大なスペースを市民、ＮＰＯ、企業、行政が 100 年もの時間かけて森をつくる活動です。この活動は2004年からスタートして10年を迎えようとしています。100 年ですからあと 90 年、多分ここにおられる方は、見ることができないと思いますが、私たちはこの先十数年間の道程は見ることができるかなと思って活動しています。



「共生の森の仕組み」について説明します。「大阪府」「ＮＰＯ大阪府民環境会議」「ＮＰＯ共生の森」という３つの団体が事務局となり、大阪府、堺市、各企業、各ＮＰＯで「共生の森づくり全体会議」を開催し、その場で共生の森づくり全体の計画を検討するとともに、各団体が活動している内容・意見を交換して共に連携し森づくり活動をおこなって行こうとしています。この会議は年間４、５回開催しています。

「森づくりの目標」について説明します。私たちが目指すのは、『さまざまな生き物が棲む変化のある空間づくり』です。水辺エリアには池が２カ所あります。ここでは水鳥が集う場所、草原エリアは、樹木よりも草本が育む場所で、草原の小鳥たちが飛び交う場所、シンボルエリアは「ちぬみ山」と呼ぶ、標高が海抜 27ｍの小さな山で一昨年度から、本格的な植樹を始めています。シンボルエリアの一部は常緑樹の森、一部は落葉樹の森、そして里山林とブロックに分けて計画し活動しています。Ｎ山は、各企業、ＮＰＯが独自の活動をしています。Ｊ山は試験森づくりエリアとして、色々な樹木を植栽して、どの樹木が育つかという確認のために植樹しています。

「主な活動１」について，一つは毎月の第４日曜日に「森ＭＯＲＩサンデイ」の名前でイベントを行っています。もう一つは「平日活動」で毎月第３火曜日に、それぞれの時期に合った活動をしています。例えば、「苗木づくり」これは自分たちが大阪近郊で集めてきた種子やドングリを一から育てています。「研修会」は植樹祭に向けて、樹木医の先生に植樹のノウハウを学んでいます。「草刈り」これは一番大切な行事で、夏に植栽地が草で覆われますので草刈りイベントを開催しています。「間伐」は昨年から行なうようになりました。樹木が育ち過ぎたところは人も入れなくなり間伐が必要となりました。それと並行して外来種を除伐する作業も行っています。「植生調査」「観察会」は秋に樹木の成長度を測る調査や、いろいろな鳥・昆虫の観察会も行なっています。「竹林づくり」は去年から始めました。世間では竹林は嫌われていますが、私たちはここで管理された竹林を目指して作

業をしています。「検討会」は屋外の作業に加えて、室内で２カ月に１回、運営委員会を開き、森づくりに関する意見の交換会、検討を行なっています。

「主な活動２」については、「共生の森・植樹祭」の開催です。市民、企業、団体、小学校など、約 500 名程度集まっていただき、植樹会を開催しています。今年は３月の２日と３日、２回に分けて行います。ぜひ興味のある方は参加していただきたいと思います。行政とＮＰＯが協働して運営する年１回のメインの行事です。

「植樹実績」について、これは今まで約 10 年間の植樹実績です。「共生の森・植樹祭」で約２万本、各企業・ＮＰＯ、行政（「SAKAI クールダム植樹」は堺市/「はじまりの森・植樹祭」は大阪府/堺市/毎日新聞）がイベントを開催し約３万本、合計約５万本が過去に植樹されました。これは平成 23 年度の実績ですので、24 年度それから 25 年度も含めると約６万本になると考えています。

「植樹の原則」は植樹にあたり、一つの原則を設けています。それは郷土種を植樹するという事です。外来種もしくは園芸種は植えない、大阪の近縁にある樹をここに導入したいと考えています。郷土種の範囲として大阪あるいは近畿の太平洋側の樹種を集めて植樹することにしています。

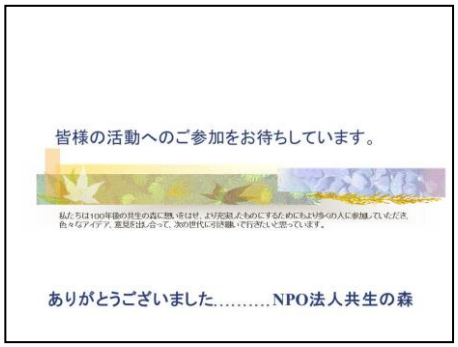
「植栽地の現状」これは実績の一つです。平成 17 年度にこの場所にクロマツを約 2,000 本以上植えました。この場所は「育つかどうかわからない」ということで、１ｍから 1.5ｍ間隔に植えました。結果、以外とよく育ち高さが約５ｍにもなり人が入れなくなってしまいました。そこで昨年度から間伐を始めています。

「棲み始めた生き物たち」について、植樹から 10 年が経ちます。草木が成長して虫も増え、鳥もやってきて豊富な生き物たちが集まってきました。昨年は哺乳類のタヌキも現れました。その痕跡と同時に自動カメラでの撮影に成功して、やはり生き物たちが、増えてきていることを実感しています。私たちがしんどい作業をしている中の楽しみの一つです。

「フォーラムの開催」は活動を広く理解していただくために、昨年度４回の「共生の森のフォーラム」を、いろいろな外部の方に参加していただいて開催しました。

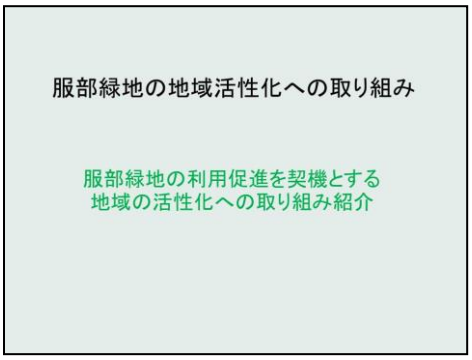
終わりに、私たちは約 100 年後の共生の森に想いを馳せ、より充実したものにしていきたいと思っています。これからも多くの人に参加していただいて、いろいろなアイデア、意見をみんなで話し合って次の世代に繋いでいきたいと思っています。ぜひ皆様のご参加をお待ちしております。

本日はどうもありがとうございました。



服部緑地の利用促進と地域活性化

一般財団法人大阪府公園協会
服部緑地管理事務所
柿谷 武司



【柿谷】　こんにちは。服部緑地管理事務所の柿谷でございます。私、一般財団法人大阪府公園協会というご紹介なんですけども、服部緑地の指定管理者でございます。実は去年秋に募集があって、来年 25 年からまた５年間引き続いて指定管理者とやっていくということに決まりました。ありがとうございます。

さて、服部緑地は府営公園の中では府下最大の府営公園でございまして、面積は 126 ヘクタール、来園者数が年間 600 万人お越しになります。その中で都市緑化植物園というのがございます。

今大阪府では、箱物施設での収益率が悪いものを廃止する方向で、植物園も収益率が悪く、有り方を検討する対象施設となっています。

植物園をご存じの方いらっしゃいますでしょうか。服部緑地に植物園があるなんて全く知らない方がたくさんおられたということで、私は衝撃を受けております。どういうことかといいますと、600 万人の利用者の中で植物園の利用者数は３万数千人しかおらない。考えられないことです。

これは、どういうことかというと、やっぱり利用促進にあまり力を入れてこなかった。植物園をきっちり管理していたら、お客さんが来るものだと思っておったんですね。

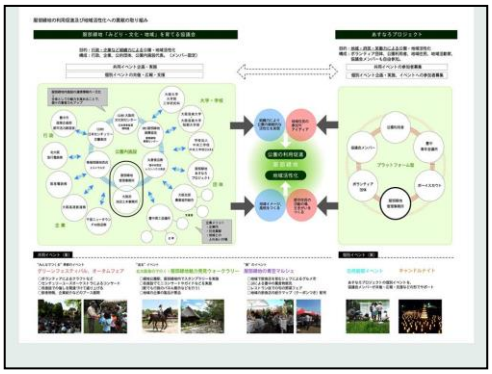
一方、服部緑地のパンフレットを表に置いておりますけれども、服部緑地は幕の内型といいますか、いろんな施設がたくさんございます。府営公園でも珍しい公園でして、例えば日本民家集落博物館とか、それから日本センチュリーオーケストラの事務所もございまして、野外音楽堂、乗馬センターというのがあることや大阪駅、あるいは新大阪駅からわずか 10 分、５分ぐらいの位置あるのが特徴です。

それから千里丘陵の名残をとどめていまして、大きな竹林がございまして、既存の樹木、特にクロマツが多いんですけど、クロマツもアカマツもございますが、そういう既存の大きな大木があるということで、自然環境条件がいいわけで、そういうことで 600 万人お越しになる。ところが植物園は３万人ということです。

服部緑地中の施設でも、乗馬センター、日本民家集落博物館や日本センチュリー交響楽団さんも、実は所管が違う別のセクションで独自で管理運営されています。

ですから、これらは公園管理事務所では管理対象外施設になっています。

課題は、例えば公園管理事務所にお客様から、民家集落博物館で何をやっているんですかとのお問い合わせについて、全く答えられません。今まで、２年前まではそう答えていたんですね。それでいいのかなと。指定管理者の我々所管の区域だけを守っていればいいのかなと。それでは駄目だなと。みんな、服部緑地のお問い合わせの窓口になるのが指定管理者であろうということで、ここに大それた地域活性化と書いていますけど、実は、服部緑地の利用促進をまずやらなあかん。そのためには、お客様に応じた情報をしっかり持って、お答えできるような体制をとらないといけないということで、実は内々で、そういう体制を、ガッチリと一体となるように体制づくりをやろかということから今回始まったわけでございます。



次の図なんですけども、実は、右側の図と左側の図が大きく分かれています。３年ぐらい前までは、服部緑地で、これは我々指定管理者の提案で、あすなろプロジェクトというのを開催してきたわけです。これもお客様の意見を取り入れて、それを公園の管理に反映させようということで、右の６つの丸がありますが、豊中青年会議所さん、ボーイスカウトさんが夏場にキャンドルナイト、などが開催されていたんです。

これを公園管理者と一緒にやろうということで連携を組んで、そのときに、公園の中でいろいろ活動されているボランティアさんとか、そういうお知恵とか、いろいろご意見とかいただいて、それを例えばイベントとか、そういうことに反映していこうということが、あすなろプロジェクト、これはずっとやってきておったんです。

それから私、先ほど背景を言いましたように、施設毎のイベントがばらばらで開催していたのを、統一したいということで、２年前に服部緑地「みどり・文化・地域」を育てる協議会を開催してきたんですけど、まず、真ん中のコアの部分の６つの丸ですけども、これは公園内施設ですね。日本センチュリーさんとか民家集落博物館、レストラン、売店です。

そのコアのメンバーに、実は、これまで都市公園というのは、地域からいったらブラックボックスに近いと思っていまして、例えば服部緑地で緑地公園駅というのがございます。御堂筋線の北大阪急行の駅ですけども。駅を出ますとすぐに公園なんですね。その周りの企業とかマンションがあるんですけども、公園が大きくブラックボックスになってるんと違うかと。地域の活性化の、どちらかというと足を引っ張っているんじゃないかという危惧もございました。公園の中だけで、マスターベーションで一生懸命利用促進をやっても、何ら地域には貢献しないし、どちらかというと、通勤、通学とか、いろんなイベントの阻害要因になっている可能性が高いということで、地

域の方を入れようということにしました。まず、近くに大阪音楽大学さんがございますので、連携しようということで、それから専門学校さん、建築測量の専門学校さん、それから、服部緑地は豊中市にございますので、豊中商工会議所さん、それからＪＡさん、それから電鉄系では、北大阪急行さんを初め阪急電鉄さんや大阪モノレールさん、メディアでは、千里ニュータウンＦＭ放送株式会社さんがございますので、連携させていただいて、いろんなイベントを共同でできないかということで、２年前の 12 月に立ち上げて、去年１年間活動をしてきております。

さて、服部緑地「みどり・文化・地域」を育てる協議会の経緯ですが、当初は、服部緑地の利用促進から始めるということで、地域がなかったんですけども、やはり地域の活性化が大事ということで、それが一番メーンに置いておりまして、まず服部緑地の利用促進を踏まえて、いろんな団体、いろんな個人さんがいろいろ参加されて、それが地域の発展化、活性化につながると、それを目的としております。

服部緑地「みどり・文化・地域」を育てる協議会

- 目的
  服部緑地が有するひろがりと多様な自然、緑、文化的資源を活用し、大阪府の緑と文化を代表するとともに、時代をリードする先進性あふれる風格のある公園となるよう、園内の各施設・団体及び関係団体が連携し公園全体の持続的な活性化を実現し、公園の利用促進を契機とした地域の活性化へ寄与することを目的とする。

それで協議内容といいますと、あまり難しい議論をやってもいけませんので、共同イベントの企画、開催です。実は、個々ばらばらでイベントやってきたということもございます。北大阪急行さんもウオーキングをやられて、服部緑地を拠点にされたとか、それから民家集落さんも、おのおのイベントをやってきた。そのイベントの時期も内容もばらばらでした。それを統一したらどうかということで、そういうことで、共同イベントの開催の企画とか、それから近隣施設、周辺地域の地域活性化に関する事業の推進ということもございます。まずは、４つ目も、課題の共有化、服部緑地で一体何ができるんかということも踏まえて、共同で何ができるかということを一体的に考えて、服部緑地は地域のみんなの公園だという認識を持っていただいて、いかに利用できるかということを発想していただくということでございます。

服部緑地「みどり・文化・地域」を育てる協議会

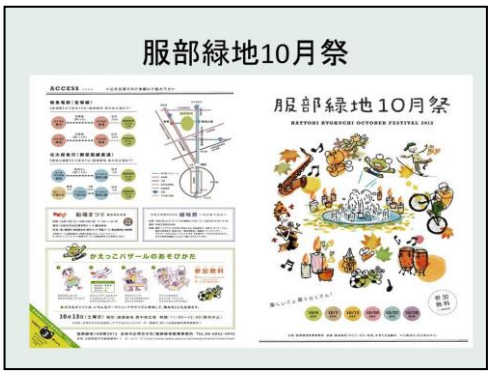
- 協議内容
  - ○共同イベント等の企画・実施・広報活動。
  - ○服部緑地と周辺地域、近隣施設などとの連携による地域活性化に関する事業の推進。
  - ○個別行事等の相互支援・連携化
  - ○課題の共有化
  - ○公園全体の年間行事等情報の提供
  - ○利用者の立場に立った公園情報の一元化及び発信
  - ○利用ニーズやトラブル、苦情等への公園全体としての対処
  - ○その他、本会の活動に関する事項。

次が、これは協議会の開催状況写真です、こんなにようさん集まってワーワーと議論をやっているというところですね。

協議会開催状況

それで、やっと昨年 10 月に統一的なイベントをやろうかということで、10 月祭というのを開催させていただきます。これは、統一チラシが今まで

なかったということで、みんなで、まとめて統一チラシをつくったんですね。右の下のように、10月６日、７日、13日、28日というようなことで、毎週イベントをやるということです。左側は、かえっこバザーの遊び方となっていますが、これも地域の子供たちが要らないおもちゃを持ってきていただいて、ポイントをつけて、それを交換していただくというようなこと。その真ん中あたりには船場まつりというのがあります。ここにも我々、出掛けていってＰＲしております。それから緑地祭というのは、先ほどの専門学校さんの学園祭ですか、それと共催すると。これは中身でございまして、10月祭の内容ですね。こういうことでチラシを統一すると。主催は小さく見るとおのおのやられるんですけども、統一で、例えば一般のお客様がこれを見られて、服部緑地で一月間にこんなことをしてるんだなということで、このチラシも捨てずに１カ月間は持っていただけるという効果もございます。



10月祭の内容ですが。ご覧のように主催者がばらばらでございます。青年会議所さんが主催であったり、あすなろプロジェクトが主催であったり、大阪府も防災フィールドワーク・キャラバンということで、防災施設、防災公園なので、そういう施設の案内とか、利用をやってもらうイベント。これまで時期が異なっておったんですけども、10月にみんなで一緒にやろうかということで、こういうようなスケジュールでやった結果でございます。これが、かえっこバザールの状況ですね。

それから、ちょっと発展しまして、実は、秘密の花ソナタというのが、８月から11月まで毎月、大阪音楽大学さんが植物園で演奏会をされて、それに11月４日に、地元のオーナーシェフの会、北摂会というのがございますが、そこの一部のお店が屋台を出そうかということでやったということで、このときは大体

1,000 人ぐらい集まっています。

それから右側ですけども、ちょっと発展しまして、２月はシェフの屋台だけをやったんですね。音楽は大阪府の職員で構成しています花ふるバンドに出演していただいて、このときは、お客様が約 2,000 名ですね。だんだん倍々に増えてきました。この２月の寒いときに 2,000 人来られたということでございます。これが、シェフの屋台の模様ですね。ちなみに、このテントは花博記念協会さんの助成事業でいただいたものです。これが音楽の状況ですね。植物園の温室手前側のスタンドになります。そういう状況ですね。地域と一緒になって服部緑地の利用促進と地域の活性化を併せた取り組みのご紹介です。どうもありがとうございます。

椿まつり（花ふるバンド演奏）

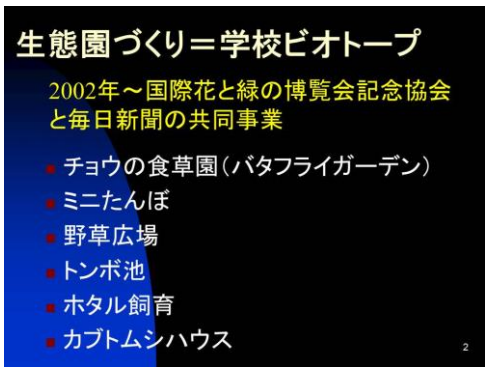
椿まつり（シェフの屋台）

学校ビオトープ「生態園をつくろう！」

毎日新聞大阪本社
大島　秀利

【大島】　皆さん、こんにちは。毎日新聞の大島です。今日は発表にお集まりくださり、ありがとうございます。

私たちに与えられたテーマは、小中学校における生態園づくりとマスコミュニケーションの役割です。主催者の側から示唆がありまして、こうしていますが、全体の私の役割としては、この生態園をつくるというのは、どういうものか、またどういうふうに報道機関がかかわっているのかご説明したいと思います。

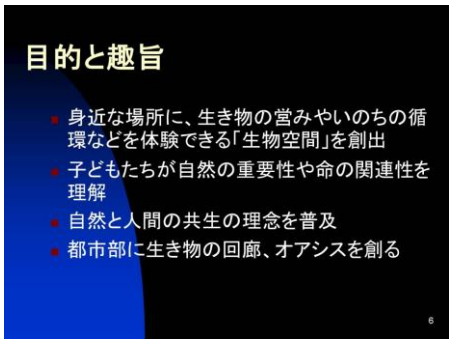


生態園づくり、つまりは学校ビオトープの取り組みは、始まりは 2002 年ですから、今から 10 年以上前です。その時の担当者は私ではなかったのですが、その者と花博さんで何か共同のイベントができないだろうかということで、始まりました。

具体的には、例えば、バタフライガーデンであるとか、ミニ田んぼであるとか、野草広場、トンボ池、ホタル飼育とかカブトムシハウス、これを学校の中につくろうというものです。まさに、それが学校ビオトープなのですが、学校に費用を出させるわけにもいかないということで、花博記念協会さんがお持ちの費用を捻出してくださり、それを我々がまた配分して、それで次々と事業をしていくということを展開しています。

例えば最近、２、３年前の例ですが、バタフライガーデンの様子があります。このように子供たちが、学校の中にできたビオトープの空間、それをいろいろに利用してもらうということです。

これは池で、土を入れていたり、生物を入れている場面だったと思います。こういう形で授業の中で活用してもらっています。



これは京都の方の例です。カブトムシハウスというものを造った中学校です。カブトムシの幼虫を育てて、どんどん大きくなるに従って、地元の小学校の子供たちも呼んで、いろいろなイベント、自然に親しむ行事をやっていました。

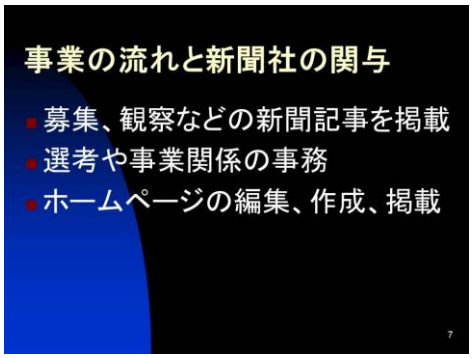
目的と趣旨は、まず、身近な場所に生き物の営みや命の循環などを体験できる生物空間を創出するということです。それと、子供たちに自然の重要性や命の関連性を理解してもらうということです。これは個人的に言うととても大事なことだと思われまして、例えば都市に生活をしていますと、子供たちが昆虫が怖いと。昆虫といったらゴキブリを思い出すのかどうかはわかりませんけれども、とにかく触れないとか、あるいは、野外活動をしても、やっぱり昆虫が怖い、だから外に行けない。人間というのは本来、自然との関係性において生きていかなくちゃいけないのだけれども、それと全く隔絶されたところで子供たちが育ってしまっている。果たして、それで子供たちの将来はどうなるのだろうかと。例えば、そういう生物との関係性を持たずしても、今の世の中というのは成り立つのかもしれませんけれど、大きく見たら、少なくとも多くの子供たちが、そういう生物を身近に感じて、生物とは何かということを感じてもらわないと、この地球の未来はないなと思います。私なんかも幼いころを考えると、カブトムシ捕りとか、ザリガニ捕りとか、いろんな魚捕りとかに駆けずり回っていました。そういうことが無意識のうちに、自分としてはいい体験になっているなと。それを、やっぱり今の現代の子供たちに、特に都市部の子供たちに、伝え、良さを楽しんでもらう機会を設けることが、最大の狙いであり、共催した花博さんも同じような思いで、この事業に進んでいくことになったと思います。

それは大きくいって自然と共生の理念を普及させるということだと思うのですけども、あと、もう１つ、都市部そのものに生き物の廻廊をつくる、オアシスをつくるという目的があります。この花博との共催事業は、主に近畿の都市部が多いです。その地域に限っているわけではないのですけれども、やっぱり申し込んでくる学校は都市部ですね。もちろん、都市近郊のところもありますが、そういう意味でも、普段、緑がないところに、オアシスをつくっていく意義があると思います。特に、学校という場は公共的な場であり、基本的には土地代はかかりません。趣旨を理解しさえもらえれば、そこにどんどん、そういう空間をつくっていく上で格好の場所であるという認識で始めたわけです。

そもそもは２校ぐらいで始まりました。試験的に、奈良と大阪の学校で始まりまして、その時から、私が関与し始めたのは２回目の募集ぐらいからですけども、次々と

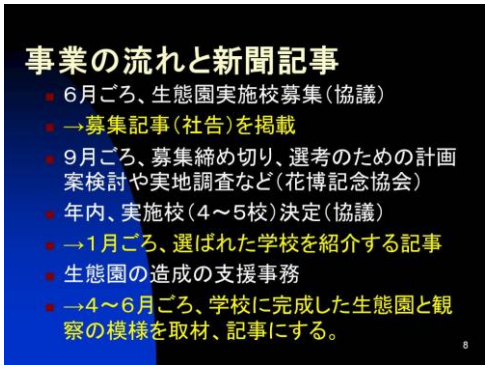
学校が加わっていきました。そうしていくうちに、前の学校の事例を今度、次の学校が学んでいきます。あるいは、主催者の側の花博さん、あるいは毎日新聞としても、前の学校で学んだノウハウを、こういうふうにやったらうまくいくとか、蓄積しつつ、実績を積みあげて来ました。

我々の関与の仕方は、まず募集、観察などの新聞記事を掲載します。とにかく広告塔としてやるということですね。その広告塔の意味としては、今までビオトープなどにあまり関心を持っていなかった、活動していなかった方々、特に学校の先生とか地域の方、そういう方に関わってもらうために、多くの方々が見る紙面というのは、とても有用であろうということです。



それと選考や事業関係の事務に関わります。事業の中心は花博記念協会さんですが、それをサポートし、我々がやったほうがいいような部分を担っていきました。例えば、我々の特技とするところのホームページの編集、作成、掲載ですね。

この事業の中での記事の役割を説明します。募集の際には、花博さんが作成した原案を協議し、毎日新聞側からも、こんな感じで原稿をつくったのですがどうでしょうかと相談しながら、いろいろ補助の対象となる事業とかを記事にいれます。記事を掲載すると、９月ごろに募集を締め切り、選考します。実施校の候補が上がってくると、花博さんが実地調査、あるいは計画案の検討をします。それが特に単なる補完作業に終わっていないかという、そういうところに着目します。年内、大体今は４、５校程度を決めまして、そのころ、この選んだ学校を紹介する記事を出します。

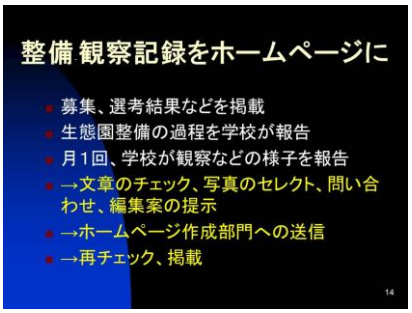


４月から６月ごろ、一回りして、ちょうど今ごろ（１～３月ごろ）造成が行われていて、次の年度始めの春になると、今度は学校の授業の一環などで子どもたちによる観察が始まります。それを記事にしていきます。

このような感じで記事にしていきます。これは、生態園をつくっている途中の写真ですけども、社内的な狙いでは、私だけじゃなくて、なるべく色々な記者にも加わって

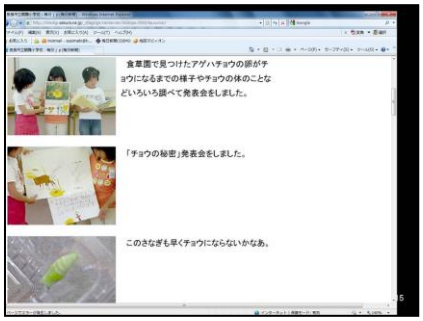
もらうように仕掛けをしています。特に近畿圏、京都であるとか、兵庫であるとか、奈良であるとか、いろんなところに拠点がありまして、そこの支局の記者に依頼を出して、記事を書いてもらうということです。

そして、とてもうれしいのは、例えばここでビオトープを題材に、今度は新聞をつくるという学校の取り組みです。生態園づくりを１つのきっかけにして、広がりをつくってもらうということです。

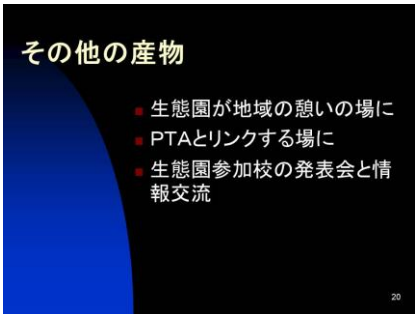


こういった結果を、ルールとしては、１カ月に１回、学校のほうから報告をしてもらって、それを条件にして助成するということなのです。それを記事と、基本的に同じようなことに加えて、ホームページにしていきます。

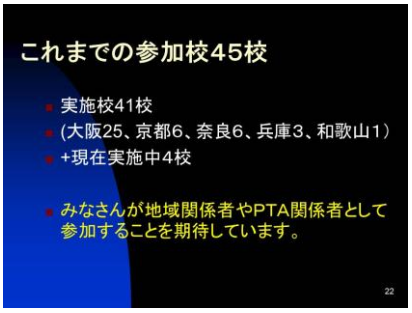
これは第１回の様子です。このような形でつくっていく過程を説明していくということですね。



その他の産物としては、５年前に発表会を開催して、情報交換をしました。



今は、実施校は 41 校で、こんな配分になっていまして、現在、今まさにやろうとしているところが４校ありまして、全部で、いつのまにか 45 校になりました。私としては、ＰＴＡの方とか地域の方も参加できるので、ぜひとも皆さんの地域の学校を題材に、学校を動かして、私がやるから学校で申し込んでくれとご提案すれば、それが回っていくと思いますので、ぜひとも応募をしてください。次の募集は６月ごろです。



ご清聴ありがとうございました。

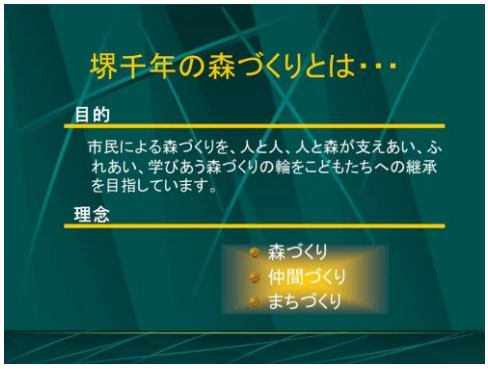
堺市民の森づくり

堺千年の森クラブ
雪村　道生

【雪村】　皆さん、こんにちは。堺千年の森クラブの雪村と申します。

堺千年の森クラブといいますのが、ここに書いてあるとおり、堺市民の森づくりを目指して発足しました。この下にありますように、堺市において大仙公園予定地の一画が平成の森づくりの舞台として選ばれ、平成 12 年 1 月の第 1 次ワークショップの開催とともに、市民参加の森づくりはスタートしました。

平成の森づくりというのが、平成 11 年当時の建設省、今の国交省ですね、そこが提唱していた市民と行政が力を合わせて都市公園の中で住民参加の協力により更地から森づくりを行う市民参加の森づくりということで、平成の森というのを今の堺の地で始めております。



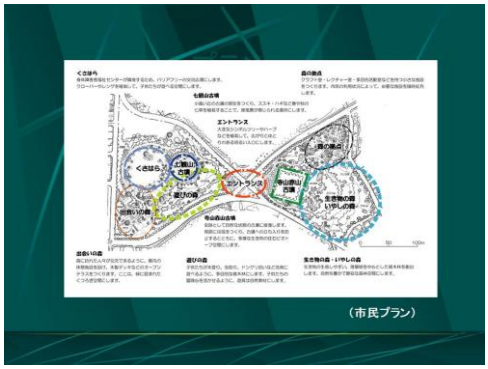
それからもう 12 年になります。堺千年の森づくりの目的が、先ほどと重複するかもわかりませんが、市民による森づくりを人と人、人とものが支え合い、触れ合い、学び合う森づくりの輪を子供たちへの継承を目的にしていますということで、平たく言えば、千年先までみんなで守っていこうやというようなことですね。それから、森づくり、仲間作り、まちづくりというのが理念としてあります。

活動の拠点なんですけども、堺市の、この赤丸の場所ですね。先ほどの、共生の森さんが西側なので、こちらは大体、旧市内の真ん中ぐらいになると思っていただけたら。この赤い中にしま模様でこのチョウチョの翅みたいな場所、こちらは、仁徳天皇陵と、履中天皇陵、この間に挟まった大仙公園というのがありまして、この公園を、仁徳

と履中天皇陵の間全部を公園にしようというような堺市の動きとともに植樹活動を市民が支えていこうかというような動きで始まったものです。現在は、こちら側の、いわゆる半分は既に植樹が終わっておるんですが、この右側の半分は、ちょっと停滞気味な部分もあります。

この平成の森ができるまでということでということですが、まず初めにワークショップを２回ほどやりました。そのときの風景ですね、こちらは。先ほどのチョウチョの翅みたいな場所の中で、どういうものをつくっていきましょうかということをみんなで話し合いました。平成 12 年のことですね。

それから、基本計画実施、それから整備開始、記念植樹による森づくりと、順次、今現在、このあたりになっとるかと思いますが、今、半分の部分については、植樹がほとんど終わりましたので、今森づくりのＰＲか、準備活動は済みました。森づくりの活動とＰＲと維持管理、森の活動ですね。この維持管理が今の主な部分になってきております。



先ほどのワークショップの計画の、もう１つ、設計段階の図ですが、こちらに七観山古墳というのがございます。これですね。この古墳を今、地元の子供たちは山と呼んでいるんですけども、普通の山に仕立てて、展望台のように登れるようになっております。だから、そこで子供たちが走り回ったりして遊んだりしております。この場所に今、圃場をつくっていただいて、私たちの活動する拠点になっております。その活動は、また後で出ますが、全体活動日として月１回、それから、あと、先に番人会というのが、組織の構成ですね。番人というのは役員さんで、広報部会、調査部会、イベント部会という部会があって、それの部会長、副部会長さんとか書記とか会計さんの会です。これは毎月１回。それを受けて、番人会を受けて、各部会がまた月１回あって、その部会と番人会を受けて全体会があって、それも月１回で、今日も朝やってきたんですけども、長年や

っていると、いろんな問題が発生してきたので、修正もしなければならない部分も増えてきていますので、そういうことを会議によってやっていっています。

今までの流れの、もう一度おさらいみたいなものになるんですけども、準備活動としましては、模型をつくって設計していきました。それから、吉野村というところへ出掛けていって、間伐作業の実体験をやりました。その後、これは育苗ということで苗を育てていって植樹祭に提供していくというような動きの一環で苗をつくってやっています。これは堆肥づくり、要は枯れた葉っぱをこういうふうにして、熱を持たせて堆肥にして、植栽の下地にするということですね。これは、琵琶湖に行って、植樹祭の体験を参加で体験させていただいたものと思います。

それから、森づくりのＰＲ活動としては、これは多分、地元の大仙公園の中だと思うんですけども、ドングリの落ちる時期に、ドングリ拾いイベントとして、子供さんらに採ってもらって、それを基にクラフトづくりをしています。これがそのクラフトづくりの実施の様子ですけども、一応、植物の材料でつくっていきましょうということで、毎年いろんなイベント、農業祭、堺市にある行事に参加して、それで一緒に、子供さんらと、色々なクラフトづくりを楽しんでいただいて、千年の森クラブに興味を持っていただいて、千年長くつくっていきたいなというような趣旨で、農業祭であれ、緑化祭、それから、夏休みの最初に夏休み子どもイベ

ントというのも企画しています。そのときには老大のほうからも助成をいただいて、結構そちらのほうは人数が多いので、逆にそっちのほうが主催側になっているような懸念もあります。

【PR】苗木の説明と里親募集

【PR・記録】ニュースレター「堺森ラボ」の発行

それから、これはまたＰＲとして、苗木の説明とか、里親募集といいまして、苗木を子供さんらに持って帰ってもらって、育ててもらって、それで今度、次に植樹をしましょうというような活動です。

【学習】植樹に際しての事前確認

それから、これはＰＲということで、広報紙を月２回ほど出しておりますけども、いろいろ費用もかかるので、大変な状況はあります。

これが、植樹に対しての整備を行政側にやっていただいて、その後の、事前の確認ですね。どこに何を植えるか、どういう感じで植えていくかとか、あと、やった後の水やりをどうするかというようなことです。

【飾花】交流を兼ねた会場飾花作業

【受付】手作りの資料やスコップの配布

【PR】劇仕立てによる森づくりの紹介

【植樹】1，000本近くの苗木の一斉植樹

これは、そのときのプレゼンですね。植樹祭に対して、こういうものを並べていっとこうと。

これは植樹祭のときの受付の様子です。年に１回、３月の第４日曜日に植樹祭としてやっております。

これは、活動の様子を劇仕立てにして、千年の森クラブの意味や目的を皆さんにわかっていただこうとしたものですね。植樹は１回、1000 本ぐらいのものを５年ぐらい続けてやっています。

これは、これからの課題になってくるんですけども、植えた部分の整備ですね。それと、この写真は植樹の様子を子供さんらに見せているところです。

こちらの花博記念協会さんから助成いただいたチッパーという機械です。これは、８センチ丸ぐらいのものを、チッパーですからチップにするわけですね。そういう機械で、非常に重宝しております。この丸い木の間が、１本ぐらい、まだ植わっていたと思うのですけど、それを全部取り払いましたので。これが、皆さんで植えていった様子を全体で表現させてもらいました。

今は活動する人数も減ってきているので、皆さんにもっと興味を持っていただいて、奮って参加をいただきたいと思っています。何かいいアイデアがあれば、またお教えください。どうもありがとうございました。

【三谷】　ちょっとお時間がありますので、ご質問があればいただきたいと思いますが、どなたかありますか。

ないようですので、私からいたします。会の中に３つの部会があるというお話もありまして、よく分かりましたが、会員は今、何人ぐらいいらっしゃるのでしょうか。

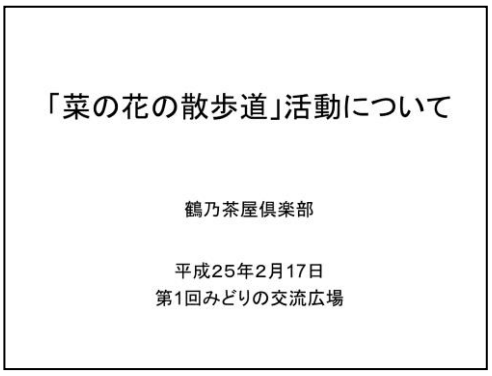
【雪村】　20 名ぐらいです。

【三谷】　ご高齢化も進むということを、先ほど立ち話でおっしゃっていただいたんですが、その新陳代謝というか、若い方を取り込むのが、今後の課題でもあるわけですか。

【雪村】　そうですね。その辺があれば、また盛り上がりが変わるかとは思います。

地域にゆかりのある「菜の花」でまちを彩る「菜の花の散歩道」活動について

鶴乃茶屋倶楽部
藤原　尚之



【藤原】　鶴乃茶屋倶楽部の藤原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

まず鶴乃茶屋倶楽部という倶楽部ですが、この名前は我々が活動しているまちが、ちょうど梅田かいわいの鶴野町、茶屋町というまちで、その地域の有志が集まって、いろんなまちづくり活動などを行っております。まちづくりやまちおこし活動について皆さんで話し合っている中で、自分たちでどんなことができるのか、まちのにぎわいづくりに何か自分たちでやってみようかという話になり、その中で、昔、茶屋町が一面の菜の花畑だったという話を聞き、そのまちにゆかりのある菜の花で春になったらまちを彩ってみようかと、そういう話が倶楽部の中で盛り上がり、やってみようということでスタートした活動です。

ご存じのとおり､大阪出身の与謝蕪村が詠んだ｢菜の花や月は東に日は西に」という有名な句がございます。実は、茶屋町の阪急アプローズ、梅田芸術劇場の前にこの菜の花の句の句碑がございます｡正直、我々も、この活動を始める前まで菜の花の句碑がここにあったということ自体知らなかったんですが、改めて見に行くと、植え込みの中に「菜の花や月は東に日は西に」という立派な句碑がございました。よし、このまちにゆかりのある菜の花で春、まちを黄色で染めていこうということでスタートしました。

最初の１年目、２年目は、まちのお花屋さんから菜の花を仕入れて、かごに菜の花を入れて店舗の方々にお声がけをし、この活動に参加してくれるお店の前に置いてもらいました。そんな中で、自分たちで種から育ててみようかと、大変かもわからないけれどチャレンジしてみようかという話になり、３年前から自分たちで種まきから始めて花を育てる活動をしています。

これは去年の活動の写真ですが、今は閉校になった小学校の跡地を使用させていただいて、地元の皆さんで種まきをしている写真です。これは 2011 年の 11 月にこのようなメンバーで種まきをしました。菜の花の種というのは本当にごま粒みたいなもの

で、１つのポットに数個をばらまいて入れていきました。

芽が出てきて、ある程度の大きさになると間引きをします。だんだん育っていくような状況です。グラウンドの一部をお借りして、ポットでこのように育てていきました。ある程度大きくなってきますと、このようにプランターへの植え替えをしていきます。だんだん育っていき、去年の場合でいいますと、11 月に種をまいて２月ごろ小さな花芽が出てきて、３月の始めに花が咲き出すというような状況でした。最初、ポットで入れたものが、3 月の初めにはこのような状態になります。花が咲き出したころに、茶屋町、鶴野町のまちの店舗や商業施設、企業などに花を持っていって、まちを菜の花で彩るということにいたします。

これが去年の状況ですが、ご存じの方もいらっしゃるかもわかりませんけど、茶屋町の NU 茶屋町というところの植え込みですとか、その NU 茶屋町の通りですとか、こういったところに、このようにプランターを置いていきます。これは、先ほどの句碑のところですね。あと、地域のマンションなどにもお声がけをして、マンションのギャラリーですとか、あるいはオフィスビルの入り口ですとか、そういったところにも菜の花を飾っていただいております。

これは、参加されている個人のお店です。これは毎日放送。これは阪急電鉄の本社です。皆さん非常に協

力していただいて、ちょうど３月の下旬から４月にかけて、まち全体をこのような菜の花で飾っております。

いろいろなところで菜の花のプランターを置いていただきましたが、この活動を通じて何が良かったのかなと考えてみると、花を育てるというのは、もちろん大変な作業ですが、皆さんと一緒にすることによって、そういった共同作業をすることによって、よりコミュニケーションの醸成が図られたんじゃないのかなと思っています。

このように地元の神社にも置かせていただいております。茶屋町のメーンの通りの両側にもこのようにたくさんのプランターを並べて、まちに来られる方々に花のある景観を楽しんでもらうようにしています。そして３月下旬の週末には、去年の場合は、MBSの前の公開空地をお借りしてミニコンサートを、梅田ロフトの前では大道芸、また神社では落語会、このような催しも実施してまちのにぎわいづくりを行っています。

花が終わった後には種が取れますが、その種を来年に使うということも考えましたが、昔のように種から菜種油をとって、その油を神社に奉納することにしました。神社では神事にその油を使っていただ

きました。このようなことでも少しは地域貢献というか、お役立ちもできたのかなと思っております。

この活動の中では、このようなリーフレットも作成しています。内容はこの活動に参加していただいたお店や商業施設の情報を掲載し、１万部印刷しております。このリーフレットも、どこかに頼むのではなく、自分たちで、倶楽部のメンバーで話しあってデザインや編集までして、自分たちの手でつくり上げております。

あと、梅田のすぐ界隈ですので、まちではいろんなイベントを多くの企業や商業施設がやっておられます。年に２回、夏と冬にはキャンドルナイト、冬場にはスノーマンフェスティバルとか、まち全体でのいろんなイベントをされていますが、そういった活動にも、この鶴乃茶屋倶楽部として参画、協力させていただいています。今年は、そういった商業施設や企業が行うイベントに、倶楽部から菜の花を提供させていただいて、まちがイベント等で盛り上がるときに、同時にまちが菜の花の黄色でいっぱいになるように目指しております。

また、梅田ミツバチプロジェクトという名前を聞いたことがある方もいらっしゃるかもわかりませんが、梅田にあるヤンマーが主体になってプロジェクトを２年前からスタート、都会での養蜂活動をされております。ここともコラボのような関係で、ミツバチプロジェクトのメンバーの方々が菜の花づくりにも参画していただいております。そして、たくさんの菜の花が咲く時期には、たくさんのミツバチが菜の花にきています。その時期のハチミツは菜の花の風味がすると聞いております。

このような活動をさせていただいておりますが、先ほども言いましたように、地域の住民の方だとか、企業の方だとか、あるいは商業者の方、お店の方、まちにいろんな方がいらっしゃる中で、皆さんとつながりができて、皆さんそれぞれがまちへの愛着といいますか、そういったものが深まっていくのではないかなと思います。
そして、こういう活動をやはり継続していくことが非常に大切なことだと思います。最初は、参加されたお店も 20 店舗か 30 店舗ぐらいでしたけど、昨年からは 50 店舗を超え、いろんな企業を含めて専門学校や周りの地域からも参加させてほしいという声も聞いております。この活動を５年、10 年と毎年続けていき、春の時期、茶屋町、鶴野町かいわいが菜の花でいっぱいになるように、これからも活動を継続していきたいと思っております。

以上でございます。

【三谷】　フロアからご質問をいただきたいと思いますが、ご質問のある方はいらっ

しゃいますか。挙手をいただければ。

ないようでございますので、お時間がありますので、私から。

この事業は平成 18 年からおやりになっているということですから、もう７年続いていらっしゃるんですね。今お話のあったように、20、30 店舗だったものが、50 店舗ぐらいにつながって、まちの愛着、つながり、コミュニケーションにつながったという、その地域の方々が、非常に熱心におやりなっているという取り組みだったんですが、もう１つの面である集客みたいなことはいかがなんでしょうか。もともと、あの地区というのは、ロフトもありますし、たくさんの若者が来るまちなんですけども、そこの活性は、この７年で、どう変わったのか教えていただけますか。

【藤原】　この活動をしたから、お客さんが増えたということは、直接にはないかもわかりませんけど、もちろん、アンケートなどを取ったわけでないのでわかりませんけど、少なくとも、まち自体が変わってきておりますので、そういった中で、毎年何かしら新しいイベントがあったり、あるいは新しい施設ができたりということで、それと連動するような形で、にぎわいづくりにつながっているのかもしれません。花の数も去年は約 500 ぐらいのプランターを全部で置いたんですが、当初は 200、300 でしたから、そういった意味で、毎年毎年増えていっていますが、その時期には黄色と緑のきれいな菜の花が並んでいるということで、集客にはちょっとわかりませんけど、何かしら、３年前、５年前よりは、まちがにぎわいをしているなということは感じております。

「新・里山」都市のど真ん中の公開緑地で展開する人と自然のつながり

積水ハウス株式会社　設計部　大阪設計室
畑　明宏

【畑】　こんにちは、畑です。よろしくお願いします。

私は梅田のスカイビルというところで、その足元に里山というのをつくったんですが、７年前です。ニュース番組で、それを取り上げてもらったので、それをまず見ていただきたいと思っています。

――ニュース番組――

【アナ】　続いては追跡エコファイルです。今日は大都会のど真ん中に出現した新しい里山です。

【女子アナ】　その里山では、米や野菜が育てられ、鳥や虫も集まりました。すると、オフィスで働く人たちにも、ある変化が。

【ナレーター】　大阪の中心地、梅田。そのほど近くにある新梅田シティ。高層のオフィスビルを中心とした一大商業集積地だ。この高層ビルの脇に緑地帯がある。ただの公園でもなければ庭園でもない。日本の原風景である里山を手本に造成された新里山だ。8,000 平方メートルの敷地には、雑木林を中心に 200 種類以上の植栽、田んぼや畑もある。

【畑】　あ、来た、ほら、ケヤキにとまっています、ああ、いいスタイル。

【ナレーター】積水ハウスで、自由空間の研究に携わる畑明宏さん。都会の真ん中に里山をつくる企画を２年がかりで実現した。

【畑】　ここから、日本の雑木林って、落ち葉がそのままあって、落ち葉をとっちゃうと、まずは土が非常に乾きやすくなます。同時に、地面の温度が下がるんですよね。

【ナレーター】　この里山には、カエルや昆虫も住んでいる。生態系の維持が大きなテーマだ。畑や、田んぼに竹林、これらも生態系に深くかかわる要素として配置している。

【畑】　藤本先生、どうも。

【ナレーター】　設計に当たっては、鳥や昆虫の生態に詳しい藤本和典さんに協力を仰いだ。

【藤本】　きれいですね。鳥って赤い色が好きなんだけど、２番目によく見えるのは黒い色なんですね。

【畑】　ほお。

【藤本】　これ、黒テカテカしていると、思わず口に入れちゃうそうです。

【畑】　へえ。
【藤本】　さっきね、このあたりでシロハラが鳴いている。
【畑】　へえ。
【藤本】　ツグミの仲間で、数はあんまり多くないんですけども、恐らく、このあたり、狙ってんだと思いますね。
【畑】　ちょうど……。
【ナレーター】　藤本さんは、この里山が完成して以来、野鳥などの生態を観察するために毎月東京から訪れている。
【藤本】　今ちょうどモズがいたりとかね、ジョウビタキがいたりとか、ちょっと都会では大変珍しい状況が起こっていますね。モズはね、繁殖まで始めちゃっているんですよ、ここで。
【畑】　そうなんですか。
【藤本】　すごいことですね。楽しいですね、来ると。いつも出会いがあって。あ、ジョウビタキがあそこに、冬鳥のシベリアから渡ってきたジョウビタキがあそこにとまっています。杭の上に。ああ、すごいですね。今、虫を捕りました。あぜ道のところにいる。きれいでしょう。
【畑】　きれい。
【藤本】　そうですね、今、都会ではまず、だんだん見れなくなってしまって。東京あたりですと、いるとみんな自慢しますね。
【畑】　自慢する。
【藤本】　ミツバチが来ているんですよ。黒っぽい小さい日本ミツバチです。これも大変珍しいですね。ここ、大変多いんですよ。こう、ついているでしょう、歯で突いたような穴。
【ナレーター】　何気なく見ているだけでは気づかない小さな発見にあふれている都会の中の里山。
【藤本】　これはメジロがとまった。
【ナレーター】　高層ビルの隣で小さな生き物たちの営みが繰り広げられている。
畑さんの指導の下、造園業者が毎日手入れをしている。畑は無農薬栽培、その基本精神は、何も持ち込まない、持ち出さない。
【造園業者】　畑さんから指導を受けて、持ち込まない、持ち出さないということがコンセプトなので、そういう、自分もまた考えてみたりとかしているんですけど、だから、まあ言ったら、くず米もそうなんです。
【ナレーター】　キジバトがついばんでいるのは稲刈りのときに欠けてしまったくず米。これでキジバトにも生態系の一員になってもらう。
【畑】　鶴の恩返しじゃないですけど、春からは全然餌をやらないんですね。春には虫がたくさんつきます。その虫を食べてもらうという役割をしてもらうんですね。

【ナレーター】　この日はイチゴの世話。地面を黒のビニールで覆うのが一般的だか、ここでは稲わらを使っている。
【畑】　今はですね、なぜ、わらを使っているのかというと、イチゴがとり終わって土地がやせるんですが、これが、ちょうど朽ちてくるんですよね。そうすると、わらが土に養分を補っていくという形になるんです。
【ナレーター】　このオフィスビルでは、およそ 8,000 人が働く。そのうち 200 人以上が新里山のボランティア活動に参加している。昼休み、メンバーたちは畑に集まってきた。
【男性】　新梅田シティ里山くらぶと言いまして、ここのオフィスワーカーが集まって、お昼休みに、こういう収穫の作業を今しているところです。雑草とかを刈ったりだとか、あとは、土曜日に家族も含めて、ここで作業をしたりということもやっています。
【女性】　これはメキャベツです。
【男性】　虫がいっぱいいるけど、大丈夫？
【女性】　最初は、すごく気持ち悪かったんですけど、でも、もう慣れました。
【男性】　これは、ブロッコリーなんです。これ、見事にこんだけできています、家で食べます。仕事の合間を縫ってできるというのは、まず、これが素晴らしいことやと思いますし、仕事のストレスをこういうことで解消できるかなというふうに思います。
【ナレーター】　収穫した野菜はメンバーで分けるほか、オフィスビル内のスポーツクラブに並べられる。一袋につき 100 円程度の寄付金を募り、ボランティアグループの運営費に充てている。都会の中の里山の仕組み、それは発案者である畑さんの生活スタイルそのものと深くかかわっている。
【畑】　家で採れた玄米、家で採れた、これはジャガイモですね、カレー風味。これは、家で採れたカブです。びっくりした、もう。
【ナレーター】　畑さんは自宅近くに田畑を借り、家族５人分の米や野菜をつくっている。休日は専ら農作業、本格的な自給自足の生活を送っている。こうした畑さんの自然と向き合う心と藤本さんの生き物を愛する心が強く結びついて形になった。
【藤本】　約 10 年前に、実は、積水ハウスの方が、お話がありまして、こうやって庭作りをしたら面白いですよと描いたところから、何か話が始まったようで。
【ナレーター】　庭も自然の一部という考えの下、日本の在来種の木を植えて鳥や昆虫を呼び込もうと５本の木計画を実施。これまで戸建て住宅の庭におよそ 200 万本の木を植えてきた。
【畑】　あと、ここの公開空地みたいなところにおいても同じことができるんじゃないかということで、藤本先生と相談しながら進めていって、現実にこういうふうになった。

【ナレーター】　畑さんは自らの経験を生かして、落ち葉を使った堆肥づくりや、剪定したクヌギを利用したシイタケの栽培にも力を注いでいる。米づくりは地元の小学校の総合学習の一環として指導。収穫した米は子供たち全員と分け合った。

【畑】　シイタケが、もう出なくなった木というのは、ここでは、あえて置いていて、小学生も幼稚園児も見てもらって、ものが生まれるところを、芽吹きであるとか、花が咲くとか、そういった最初の場面だけを見せるんじゃなくて、朽ちた木は次の芽生えのために、自分は縁の下の力持ちになって、また土に帰っていってというようなことで、生と死を一カ所で見れるような形になっています。

【ナレーター】　ありのままの自然とまでは言えないまでも、生き物たちがかかわり合いながら成長していく息吹がここにはある。

【藤本】私は害虫なんていると思っていません、虫です。雑草はありません、草です。野草です。みんなそれぞれ役割があって。

【畑】　何かここに来たら、ここを歩いたらホッとするよねと言う方がいらっしゃるんですが、人間も自然の一部であるし、ここが１つのきっかけになって自然を考えるフィールドになっていけばいいかなと思っているんです。

【アナ】　ビルや建物に埋め尽くされた都会に、こういう場所があると安らぎますよね。

【女子アナ】　そうですよね。都会にこういったスペースが……。

――ニュース番組終了――

【畑】　映像がちょっとわかりやすいので、最初にこういうふうな形にさせていただきました。あと、３分ほどでスライドを見ていただいて補足をしていきたいなと思っています。

場所は大阪北区で、大阪駅から歩いて 10 分ぐらいのところにあります。面積が 8,000 平米でして、その中に水田があります。それと畑があって、竹林、それと雑木林があって、池も奥にあると。面積が 8,000 平米でして、その中に水田があります。それと畑があって、竹林、それと雑木林があって、池も奥にあると。それで、ここは

公開空地ですので、24 時間、どなたでも自由に散策道は歩いていただけますので、見学していただければいいかなと思います。

これを社内で通すのに、約２年ほどかかりました。もともとは花野といって、お花畑になっていたところを、ちょっと池のところを注目して見ていただきたいんですが、池の一部を埋め立てて、こんな感じで水田になったという形です。

それで、花というのも美しくて、僕も好きで家でも楽しんでいるんですが、やはり循環する森というのを里山に見習って都市でもつくってみようやという僕の企画が、ようやく通りまして、こんな形になっています。

月日はたって、今年の夏なんか、こういう、うっそうとしたような形になっていますし、あと、北ヤードのビル開発も進んでいまして、よりビルの中に囲まれたオアシスになっています

その場所で、オフィスワーカーで、先ほどの映像にも出てきましたが、積水ハウス以外の企業の方も、たくさんあのビルに入っていまして、普段はかかわりのない業種なんですが、こういうところで家族ぐるみでお付き合いをするような形になるというのも、この自然というか里山の良さだなと思います。

あと、地域の小学校とか幼稚園に呼びかけて、教育の場としても使っていまして、僕が指導をしているところです。

社会貢献の場というふうに書いてあるんです

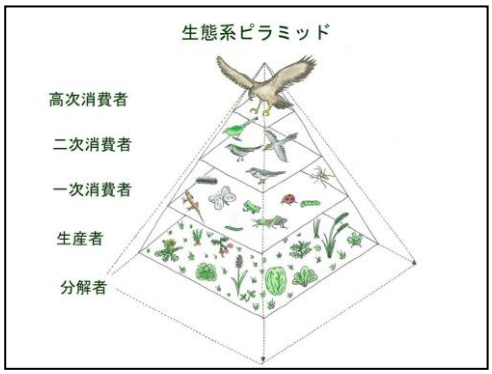
が、企業にとっても、やはりもうけるだけではなくて、きっちりと環境事業をしているのかどうか、それと社会に対して貢献しているのかどうかというところも、社会的な責任として重要な時代ですので、我々としても、やったという実績だけじゃなくて、本当に彼ら、この場合だったら子ども達の心に響く活動をする気持ちで、僕も楽しみながらやっているところです。あと、食育の場でもあります。それと、大切なのは、ここは生き物の楽園でもあるのです。地球上は人間だけが住んでいるわけじゃなくて、たくさんのほかの生き物たちが住んでいる、そういう場所の提供にもなっています。

なぜ、そういうことを積水ハウスがするのかというと、５本の樹という社内独自のプロジェクトがあって、それは、５本というのは、３本は鳥のために、それと２本は蝶のために、わかりやすいように言っているんですけど、ほかの生き物のことも考えながら暮らしの庭のことも考えましょうねという、我々がお客様ないしは一般の方に対する呼びかけです。

そのために緑地帯であったり庭であったりするところに、その生き物たちが親しみやすい在来種を中心においていきましょうという提案なのです。ただ、園芸種とか外来種を否定しているわけじゃなくて、そういうのも、やはり嗜好性で、僕も好きです

し果樹も植えますから、そういうのもありなんですが、ベースとしては、そうしていきましょうと。そうすると、小さな庭でも大きな緑地帯でも、生き物がネットワークとしてつながって、点が線となって面となっていく。それで、実は自分が庭先に植えた木であったり花があったりするのは、全部の命がつながっているという思想の下で、この５本の樹というのを展開しています。

これは、研究所で僕がつくった庭なんですけが、こういう庭が１つの例ですね。そういう取り組みがグッドデザイン賞なんかをいただいたり、環境省さんからエコ・ファースト企業として認定をされたりしております。



皆さん、よくご存じの生態系ピラミッドなんですが、やはり生産者ないしは分解者、土の部分がしっかりしていないと、ちゃんと生き物が、我々も含めて成り立たないという思想の中でやっております。こういう環境の中で、いい暮らしというのを我々としては提案していきたい。

あと、プライベートは、こういった里山に実際に入って、自分自身が楽しむことによって、いいものを仕事としてもつくっていこうというスタイルをとっております。

以上です。ありがとうございました。

ゆるやかな繋がりの中での花の散歩道

ガーデンシティーコープ金剛東すみれ会
永松　康子

【永松】　すみれ会代表の永松です。

私たちすみれ会のメンバーが住むマンション、ガーデンシティーコープ金剛東は、富田林市の金剛東ニュータウンにあり、緑に恵まれた８棟からなる総戸数 480 戸の大型マンションです。造成後、長く放置されていた地区でしたので、敷地東側の遊歩道は、両サイド クズや雑草が生い茂り、薄暗いところでした。平成６年の夏に入居したんですけど、隣のマンションに知人がいましたもので、その人に声をかけて、４人で道の端のほうにラッパスイセンなどの球根などを植えました。

最後の棟が竣工間近の８年に、市の道路公園課のほうから、グループをつくり使用許可を取ってやりませんか、市のほうも、その方向に進めますからと提案がありました。しかし、市のほうが、なかなか難航したようで、正式に発足したのは平成 10 年でした。会員募集の貼り紙をしたりして、花壇もどんどん広がっていきました。右下にあるのが市の道路公園課の承認看板です。

すみれ会は、会費はなく、一斉作業もありません。それで、各自が開墾したところを責任を持って管理をするという方針でやっています。花の苗や種とか土質改良材は全部自己負担です。材料費としてちょっと負担ですが、でも自分の好きなようにできるというのは、花をつくるのが大好きな人たちにとっては本当に魅力あることなんです。こうしてすみれ会と、お隣のマンション、緑の協力会の合わせて 410 メートルの

花の散歩道ができました。

発足後、すぐタウン誌や富田林公園緑化協会の冊子に取り上げていただき、大いに活動に弾みがつきました。ブタもおだてりゃ木に登るではありませんが、子育て同様、人間認められて褒められると、うれしくなってやる気が出てくるものです。

平成 12 年には、ＮＨＫ－ＢＳ２、私のガーデニングコンテスト団体部門に応募して放映されました。平成 13 年に、市のほうから推薦していただいて応募した、第 11 回全国花のまちづくりコンクールで優秀賞をいただきました。他の受賞歴としましては、大阪府花と緑の街づくりコンクールで大阪府知事賞です。緑の街づくり景観賞で大賞。このときは副賞として 10 万円ありました。など、いろいろいただきました。

平成 14 年６月に、自治会や老人会が、なかなかこのマンションはできないんですね。それで、すみれ会のメンバーが中心になって婦人会を立ち上げました。75 歳以上のお宅へ、すみれ会で育てたお花をブーケにして、初めの２、３年は子供会がお届けしていたんでけど、最近は婦人会のほうでお届けしております。

平成 10 年にホームページを立ち上げました。神戸や河内長野、それから北海道、遠くはイギリス在住のＫさんなど、花づくりの好きな方々との交流が生まれました。また、18 年１月には、高槻市立北日吉台小学校４年生がインターネットで道に花を植えると検索して、すみれ会のページに出会ったといって、総合学習に４名見えました。質問事項をたくさん考えてきて、良い学習会でした。学習会の後、ちらしずしを一緒にいただき談笑しました。

20 年には、全国の花のまちづくり江戸川大会と富山県グリーンキーパー研修会で事例発表をさせていただき、国土交通省都市・地域整備局景観室の景観まちづくり教育というホームページに事例集として掲載されました。その後、花博記念協会基調講演・助成事業成果発表会で発表させていただき、堺花と緑のまちづくり養成講座の現地研修会を開催しました。

昨年の秋より、花の画像を花ナビというサイトに投稿を始めました。これは、総務省ＩＣＴ地域アドバイザーの方が、京都の観光案内に役立つよう立ち上げられ、花によって観光客の増減があるので､その情報を発信するサイトです。その花の画像の投稿がちょっと少ないので手伝ってほしいとの依頼で、日本の花文化を発信と思って届けたらいいそうです。京都、大阪の一流ホテルに配信していて、大画面に映し出されているとのこと。皆さんも参加されるようでしたら、投稿サイトをつくってくれて説明に来てくださいます。

ここまでは、すみれ会がどのようにできて、どのように活動をしてきたかをお話してきました。

次に、花づくりにおいて努力、工夫している点について述べたいと思います。まず、土づくりですが、年２回の植え替えのときには、生ごみ堆肥や腐葉土、牛ふん、バークなど改良材を投入します。生ごみ堆肥は運ぶのが重たいし、ちょっとにおいがきついので、電気の生ごみ処理機に変えた人もいます。種まきをする人はインターネットで、三橋理恵子さん主催のサンズコートたねまきガー

デニング倶楽部に参加して、主に外国の種を中心に頒布され、メーリングリストで種まき指導を受けたり、情報交換ができ、種交換会もあります。

いろいろな花を育ててきましたが、その中からお勧めの花を紹介します。

春の花として、レゴウシア、左上の紫色ですね。オンファロデス､白い花です｡アスペルラ、ビスカリアブルーエンジェル、夏から秋にかけてはガイラルディア、ジニア・リネアリス、ムラサキルーシャン、アベルモスクス、最近はバラやテッセンも増えてきました。バラがあれば、やはり花壇も風格があるような気がします。表玄関のところも人が入って困っていましたので、バラを植えました。アンヌボレイン､ニューウェーブ､ミスターリンカーン、アルカンシェル、奥のほうに白い花のあるのが１年草の花です。

次が、テッセンがあり、その横がイントゥリーグで、白いエーデルワイス、ブラスバンドです。ナニワイバラに、ピエールドゥロンサール、ココ、モーティマサックラーなど、ほかにもいっぱい５月は華やかです。

しかし 2009 年には 24 株、根っこごと持ち去られ、気持ちがドーンと落ち込む出来事がありました。花の時期には写真を撮りに来たりスケッチにも来られます。その模様と作品です。

最後に、すみれ会がこれまで続いている要因などに触れておきたいと思います。１番に、誰からも強制されずに自分の好きな時間に活動できて、好きな草花を自分のセンスで植えることがきるということ。２番、通りすがりの人の励まし、何といっても、これが一番の力です。それで、この花の道のファンづくりのため、たくさん咲いているときは､奥のほうから摘んで花束にしてあげたり、

また、植え替えのときも、良いところを花束にして誰か通らないかなと待っています。種や球根差し上げますコーナーもつくります。３番として、コンテストにできる限り応募する。４番、場所に恵まれています。東向きで、朝日もいっぱい受けることができ、遊歩道であるということ。５番、事情でできなくなる人もいますが、そのときは必ず別の人に管理をしてもらうよう手配する。６番、助成金の確保ですが、幸いにも大和銀行みどり基金やコメリ緑基金の助成金をいただき、それに、19 年、20 年度と続けて花と緑の博覧会記念協会さんより助成金をいただきました。それで、土質改良材やポット苗、球根、バラ苗など、必要に応じて配布できたこと。

話はそれますが、その折に審査員をしておられたＮＨＫ趣味の園芸の元アナウンサー、須磨佳津江さんが来てくださり、東京都公園協会の冊子、緑と水の広場と、ひと・まち・みどりの本に紹介記事を載せてもらいました。

次に問題点ですが、皆さんも同様と思いますので省きたいと思います。

何枚か続けて花風景を見てください。春一番に咲く、アルコルミナマリテマ、フリチラリアやムスカリ、ここ２・３年、ラナンキュラスに凝っている人がいます。これは花束にも使えて、すごく華やかで重宝です。リナリアに続く葉壇ですね。春咲きグラジオラス トリスティス、これはすごく香りがありますとボタンの群鳥。ベニジュームとキンギョソウ、ブラックジャイアント、オルレイア。デルフィニウム、ジキタリス、ビスカリアなど。トランペットリリーも大きく育っています。表玄関のハボタン、ジニアプロフュージョンなど。

今日こちらへ来られている方々に、私たちの事例がどの程度お役に立つかわかりませんが、気長に気楽に、多くの人とコミュニケーションを図りながら、１粒の種から花のまちへと、花のまちづくりを楽しんでいただきたいと思います。自分も楽しみながらボランティアができる、まちがきれいになり、人の気持ちが優しくなる、こういうところが１カ所でも増えれば、まち全体がすてきになりますね。また、ここでの出会いも何かの縁だと思います。花の散歩道すみれ会と検索していただいたら、私たちのホームページですので、ぜひアクセスしてみてください。種差し上げますコーナーもあります。

以上で発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。

【三谷】　質問のコーナーを設けたいと思いますが、フロアの皆さん、何かご質問があれば、お手を挙げてください。マイクをお運びします。ありませんか。ないようですので、また、私から。

急いでいたので、スライドを飛ばされましたが、ちょっと笑えるものがあるので、ご紹介方々なんですが、今の活動の問題点、課題として、盗難だとかいたずら、それからイヌのふん害、それから軍資金、そういった問題があるという下に、腰痛というのがあって。

【永松】　腰痛です。

【三谷】　日ごろのご苦労が、ちょっとしのばれますけれども。先ほど、立ち話で、この活動が大変よく続いている中身としては、皆さん気ままにデザインも考えて楽におやりになっていると。今日も皆さんが、それぞれで気楽で、皆さん忙しいということで、私１人で来たのよということでしたけれども、その会の気楽さみたいなことを、もうちょっとかいつまんで教えていただけますか。

【永松】　私のところは、メンバー28 名います。花づくりの本当に好きな人が５、６名いるんですよ。好きな人たちは指図されたくないんです。これをしなさい、あれをしなさいと言われて、させられるのが嫌なんです。自分の好きなようにしたいんです

よ。だから時間も自分の好きな時間。お勤めをしている人もいます。男性の方ですね。その方たちは、やっぱり休みのときになさるし、朝早く起きる人は朝早くするし、そんな感じで、本当に香りに凝って、花のためだったら幾らお金使ってもいいという人もいます。だから、させられるのは嫌な人で、わがまま、得手勝集団です。

【三谷】　1994 年ですから、もう 19 年ほど続いているわけですね。

【永松】　はい。

【三谷】　秘訣がわかったような気がします。どうもありがとうございました。

・自然体験観察園調査隊の成果
「自然体験観察園の生き物たち」
・鳥が運ぶみどり、人が育むみどり
～大阪市東部域実生苗調査から～

地球館パートナーシップクラブ　桝元慶子

【桝元】　皆様、こんにちは。地球館パートナーシップクラブの桝元でございます。

まず地球館パートナーシップクラブは大阪市立環境学習センター、生き生き地球館を事務局として地球館を支援し、地球館とともに活動するグループです。古代米を育てたり、田んぼや畑の生き物調査、収穫物の利用などをする鶴見緑地の宝探し、大阪市内の身近な自然を観察してデータを蓄積する自然環境野外調査、そして自由な発想で行いたい企画をする、ゆかしの広場、今ここでは大阪市役所屋上緑化施設の生き物調査などを行っております。

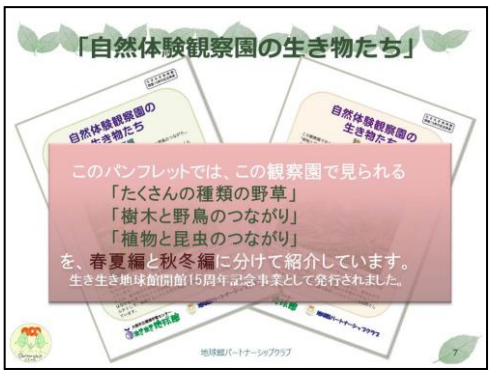
本日は、このクラブ会員たちが調査を続けて集積した成果の中から２つのテーマを紹介いたします。まず自然体験観察園調査隊の成果として、自然体験観察園の生き物たちです。

ここは花博記念公園、鶴見緑地なんですけど、今、この建物は、ここにございます。その上側に環境学習センター生き生き地球館がございます。その東側に自然体験観察園というのが広がっております。この自然体験観察園には田んぼや畑、池や水路、雑木林や野草広場など、いろんな環境がありま

す。都市の中の大きな緑、鶴見緑地に設けられた田畑や里山の風景は都市化の中で少なくなった緑を求める生き物たちが集まってくるすみかになっています。この自然体験観察園、ここは農作物をつくる目的で設けられたものではありません。都市の中ではなかなか気づきにくい自然環境の大切さや生態系の学習ができるフィールドとして来園する人々に自然を体験し観察してもらうことを目的としております。

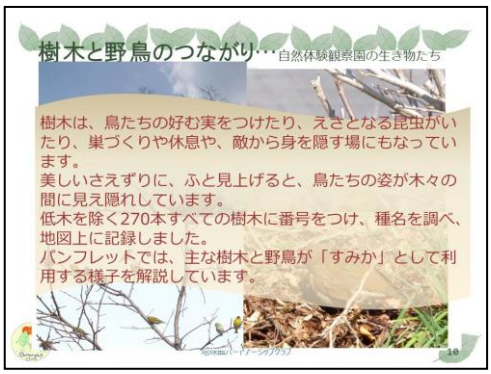
自然体験観察園調査隊とは、生き生き地球館の講座として公募により参加された市民の方々が地球館パートナーシップクラブとともに協力して定期的に場所ごとの観察を行い記録を蓄積する調査活動なんです。

皆さん、入り口のところで、このようなパンフレットをお配りしております。これが「自然体験観察園の生き物たち」というパンフレットです。ここでは、たくさんの種類の野草、樹木と野鳥のつながり、植物と昆虫のつながりを春夏編と秋冬編に分けて紹介しております。これは地球館開館 15 周年記念事業として発行されたものです。

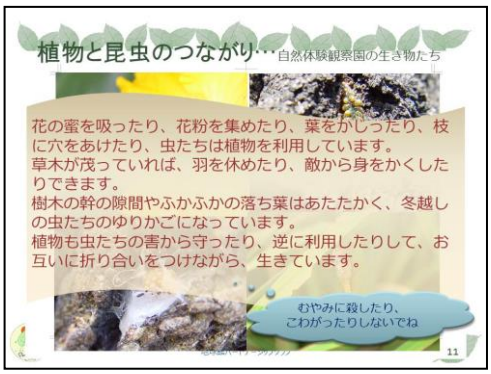


まず、たくさんの種類の野草です。見過ごしがちな足元にさまざまな小さな野草が花を咲かせて種を落とし、また芽吹いています。外からやってきて増えるものもあれば、環境が変わって消えていくものもあります。環境の変化は記録を蓄積して初めてわかることです。雑草といって引っこ抜かないでください。これは、たくさんの種類の野草のページです。場所ごとに記録していきますと、水田には水田の、雑木林には雑木林の、それぞれの環境に違いがありまして、生える野草の種類も異なることがわかります。また、続けて記録していくことで外からやってきて増えていくものや環境が変わって消えていくものもわかります。

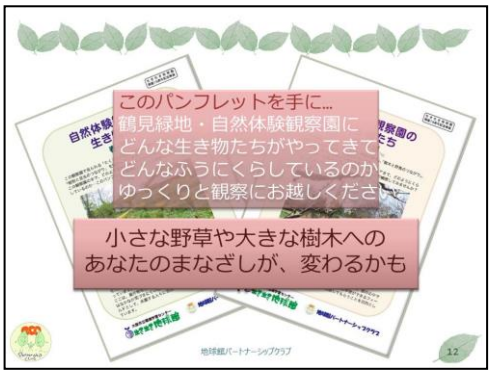
次に、樹木と野鳥のつながりです。この真ん中にあるのが、この自然体験観察園の地図になっておりますが、ここの樹木の名前が全部わかるようになっています。樹木は鳥たちの好む実をつけたり、えさとなる昆虫がいたり、巣づくりや休息や敵から身



を隠す場にもなっています。低木を除く 270 本すべての樹木に番号をつけ、種名を調べ、地図上に記録しました。このパンフレットでは主な樹木と野鳥がすみかとして利用する様子を解説しております。



次に植物を昆虫のつながりですが、このページ、ここでは花の蜜を吸ったり花粉を集めたり葉をかじったり枝に穴を開けたり、虫たちは植物を利用しています。草木が茂っていれば翅を休めたり、敵から身を隠したりすることもできますし、樹木の幹の間のすき間にフカフカの落ち葉は温かくて、冬越しの虫たちの揺りかごになっています。植物のほうも虫たちの害から守ったり、逆に利用したりして、お互いに折り合いをつけながら生きています。ですから、むやみに殺したり怖がったりしないでください。

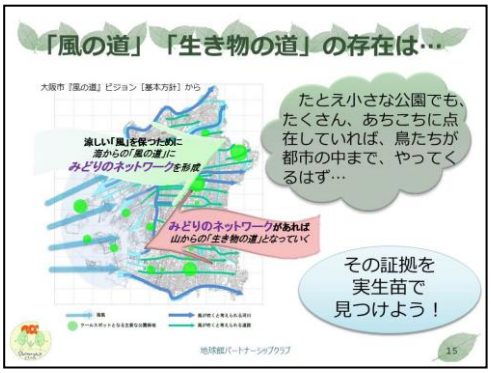


この２種類のパンフレット、このパンフレットを手に鶴見緑地、自然体験観察園にどんな生き物がやってきて、どんなふうに暮らしているのか、ゆっくりと観察にお越しください。小さな野草や大きな樹木のあなたのまなざしが変わるかもしれませんね。

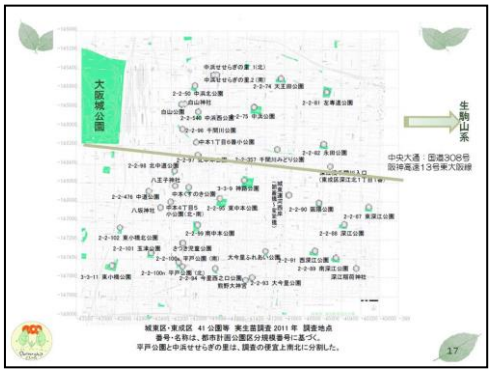
次に、２つ目のテーマ、鳥が運ぶみどり、人が育むみどりです。大阪市東部域実生苗調査の結果を発表します。実生苗とは、人が植えたものではなく実が落ちたり運ばれたりして芽ぶき、生えている樹木の苗です。たまたま、その場所が育つのに適していて、人に切られずに、また見守られながら生きているわけです。そこに鳥がやってきたことを示すものもあれば、風が運んできたものもあります。人が知らないうちに、いろんな種類の植物が増え、新たな生き物たちのすみかをつくります。

これは大阪市風の道ビジョンの基本方針の図ですが、風の道とは夏の暑いとき、涼しい海からの風を保つために緑のネットワークを形成します。この緑のネットワーク

があれば、逆に山から生き物の道となっていくのではということなんですが、たとえ小さな公園でも、たくさんあちこちに点在していれば、鳥たちが都市の中までやってくるはずだ、その証拠を実生苗で見つけていこうというのが、この調査の目的です。



調査場所は、城東区、東成区の 41 地点です。公園や神社、施設内の緑地、運河沿いなど、41 地点に及んでいます。そして、この地域は西に大阪城公園があり、東の遠くには生駒山系があります。真ん中には中央大通と阪神高速が走っています。これらの丸印をつけた 41 公園において調査を行いました。



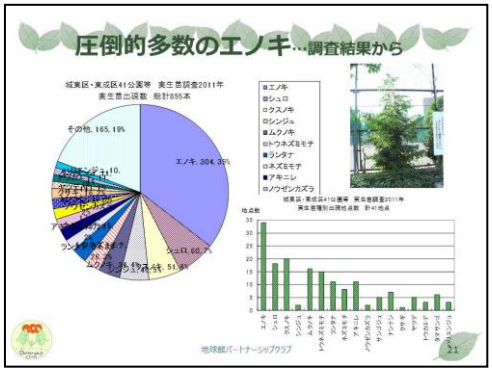
調査方法は、実生苗として定義するのは樹高２メートル以下としましたが、それでも明らかに実生であるということがわかるものは記録しました。また、親木、高い木の下の実生は入れないとか、まとまっていれば、まとめて記載するというルールをつけて調べたものです。

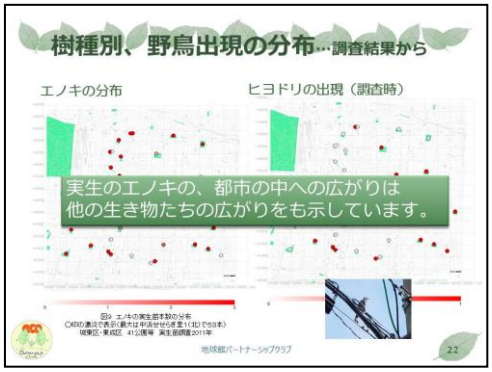
これが調査表ですが、種名と樹高、そして高木があれば、その種類も書きました。そのときに飛来していた野鳥も、ここに掲載するようにして、１本１本の実生についての写真を撮り、その高さを測っている。これが写真の例であります。

この調査結果からわかったことは、植栽でなくても大きく成長した木があるということ、それからフェンス際の場合は、そこが人から刈り込まれにくいので残っているものがあります。これはムクノキですね。それから、ビオトープ

として管理されている、これは中浜のせせらぎの里ですが、そういうところの中では実生であると思われるものが大きく成長していました。一方、これは神社の境内ですが、掃き清められているところには何も見当たりません。しかし、この神社では、その実生を寄せ集めたような玉垣をつくっておられました。それから、駐車スペースのすき間の境界のところの実生が大きく育っている場所もありました。これは人がどのように管理するかで実生が生き残ったり、なくなってしまったりということを示しています。

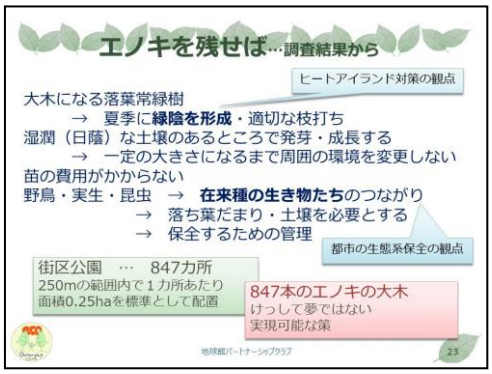
これらの結果から、圧倒的多数はエノキの実生であるということがわかりました。また、本数の多い順に左から並べていきますと、急に出現地点数では非常に少ないものも見えてきます。すなわち、大きく、広く広がるものもあれば、１地点にたくさん生えるという種類のものもあるということです。これを地図上にプロットしていきますと、エノキの実生というのは、かなり広く、多くの地点で見受けられることができました。そして、たった１日の調査の中でも、どんな野鳥がいたかということを見ると、ヒヨドリなんかは、あちこちで見かけることができたわけです。





これらの結果から、実生のエノキの都市の中への広がりは、ほかの生き物たちの広がりをも示しているということが、わかったわけです。

もし、このエノキを残していけば、夏に緑陰を形成する、すなわち日影をつくって涼しくなるということと、それから野鳥や昆虫など、在来種の生き物たちのつながり、すなわち都市の生態系保全の観点からも重要視できるということがわかります。大阪市内には街区公園など 847 カ所あります。この１公園につき１本のエノキを大きくするだけでも、大阪市内には 847 本のエノキの緑陰ができるということになります。

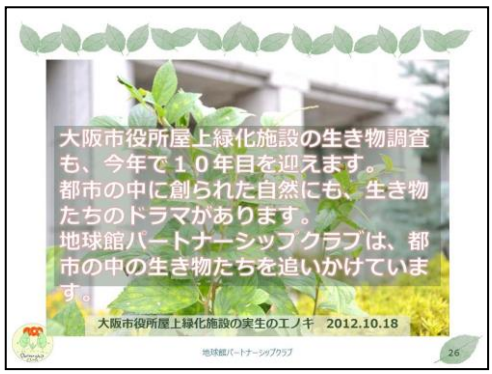


エノキは大阪に古くからある在来種で、日ざしを遮り、さらにゴマダラチョウに葉を食べられても苦情の出ない、落ち葉が土をフカフカにする木で、鳥が実を食べて種を落とす、すなわち緑と生

き物たちのつながりの象徴になる木ではないかと思います。このヒヨドリが実を食べる、このエノキの葉、この葉を食べるゴマダラチョウが落ち葉と一緒に、ここで冬越しをする、こういうエノキをめぐる野鳥と昆虫のつながりが見られるのです。

これは淀屋橋にある大阪市役所の屋上緑化施設に実生のエノキが生えてきました。この市役所の屋上緑化施設の生き物調査も､今年で 10 年目を迎えます。都市の中につくられた自然にも、生き物たちのドラマがあります。地球館パートナーシップクラブでは、都市の中の生き物たちを追い掛けています。

どうもありがとうございました。



平成 24 年度はなまつり

ヨーロッパ通り周防町商店会
松村　博、野呂百合子

【松村】　皆様、こんにちは。ミナミのヨーロッパ村周防町通りの会長の松村でございます。

発表の前に、少し我々の町の経緯を説明させていただきます。私たちの商店会は 36 年前に美しい町を目指し、お掃除会から始まりました。次に、市や府、大阪 21 世紀協会などの協力をいただき、ヨーロッパの街並みをイメージして石畳の通りが平成 60 年に完成いたしました。通りには並木や花壇もでき、大阪市と花と緑の協定を結び、花と緑のあるまちとして生まれ変わりました。

しかし、完成して待っていましたのは、ご存じのように、いろんなところの人が集まってくるようで、駐車問題や花壇の花が盗まれるということでした。

そのような中で、町は平成 13 年、ヨーロッパ村周防町通り商店会として当初の美しく、そしておしゃれなまちを目指して活動を始めました。毎月のお掃除会だけではなく、年１回、イベントとして町を花で飾るはなまつりも始まりました。平成 15 年から地域や南小学校の協力をいただき、３年生が花壇の花を植え替え、そこに植え替えした小学生の名前の入ったプレートを立てました。それが好を評したのか、花壇の花が盗まれるということが激減いたしました。やはり子供が植えた花になると盗むほうも躊躇するのでしょうか。今、世の中、すごく多様化してまいりました。気持ちとか思いが、なかなか伝わらないようになっています。しかし、先ほど申し上げたとおり、小学生が植え替えした花壇になりますと、花泥棒にも素直に子供たちの気持ちが伝わるのでしょう。

私たちの町は子供たちと町の思いを、いつまでも伝えていきたいと活動を続けてまいりますので、皆さん方のご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

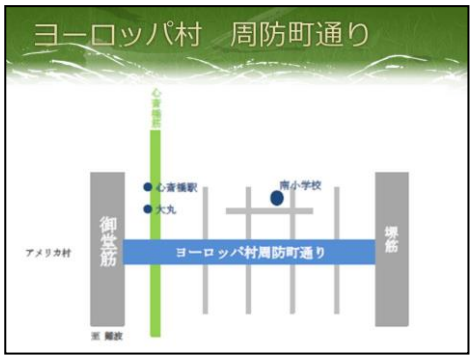
それでは、発表のほう、野呂に替わります。

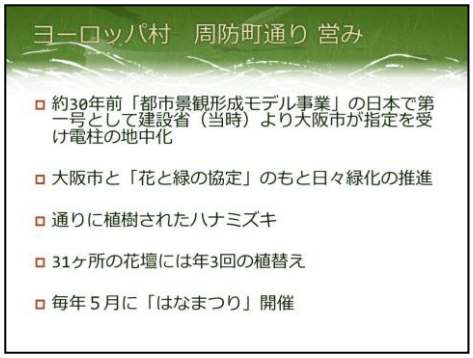
【野呂】　ご紹介いただきました野呂でございます。最後までお聞きいただきまして、ありがとうございます。

ご覧いただけますでしょうか。ヨーロッパ村周防町通りは大阪市中央区ミナミのど真ん中に位置しておりまして、心斎橋駅より少し南に下がった東西の通りです。西は

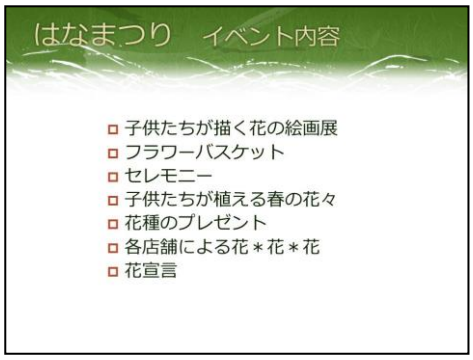
左側の御堂筋から東の右側の堺筋まで、約 500 メーターにわたる商店街です。ゆっくり歩いて大体往復で 10 分、15 分の距離のほどでございます。

先ほど会長から挨拶と重なるところがありますが、簡単に商店会の営みを紹介いたします。約 30 年前に都市景観形成モデル事業の日本で第１号として当時の建設省、現国交省より大阪市が指定を受け、通りの電柱の地中化を行いました。同時の大阪市と商店会が花と緑の協定を結び、通りにハナミズキが 50 本植樹され、花壇が 31 カ所に設置されました。大阪市より年３回配布される季節の花を会員が植え替え、日々管理をしてございます。このような経緯で花と緑と密接な縁となり、年１回の大きなイベント、はなまつりを開催される運びとなりました。今日は、はなまつりの様子をご覧いただきます。





毎年５月に開催されるということで、春夏のお花でいっぱいにしたい。また地域と深くかかわれないかという趣旨から、大阪市立南小学校にご協力いただくことになり、今年で 10 年目を迎えます。植物と触れる、育てる、町をきれいにする心の大切さを学ぶ授業の一環として、はなまつりに参加していただいております。小学３年生の春の課外授業として年間行事に取り組んでいただいております。



また、図画の授業では、児童たちが花の絵を描き、周防町通りに面するフクハラビルの壁面に飾り、さながら路上美術館というところでしょうか。写真は子供たち、先生、父兄の方々が見に来ていただいている様子です。

これは２年前のフラワーバスケットです。花の種類はハイビスカス、キンギョソウ、クロサンドラ、アメリカンブルーの４種類、バスケットの下に水をためるプラスチックのケースがついておりまして、下から水を吸い上げる構造になっております。期間

中の毎日の水やりが毎回の悩みどころでございまして、会員をブロックごとに分担し、水やり隊と称して活動しております。

いよいよメーンイベント、開会セレモニーです。南小学校の校庭にて行われます。順番に朝礼、体操、国旗掲揚と執り行われます。来賓には市会議委員の有本純子先生、府会議員の坂上敏也先生と南警察、大阪市からはゆとりとみどり振興局の緑化推進部整備課、今は協働課の方々、近隣の商店街及び自治会、企業からはサントリー、セレッソ大阪など、子供たちを囲んで、まさしく官民一体で取り組んでおります。

本日の主役、約 30 名の３年生の児童たちです。

花植えの指導に真田山公園事務所より来ていただきました。花苗のビニールポットの外し方、土のかぶせ方など丁寧にわかりやすく説明いただきました。

企業からはセレッソ大阪、森島寛晃さん、キャラクターのロビーナちゃんの訪問に皆、大喜びの様子です。

周防町通りまでは歩いて５分ほどの距離ではございますが、事故のないよう万全を期して南警察のご協力もいただきました。

16 カ所の花壇に分かれて、それぞれスタートです。土を掘り下げていきますと、マルムシが出てきたりですとか大騒ぎになるんですけれども、にぎやかに行われました。

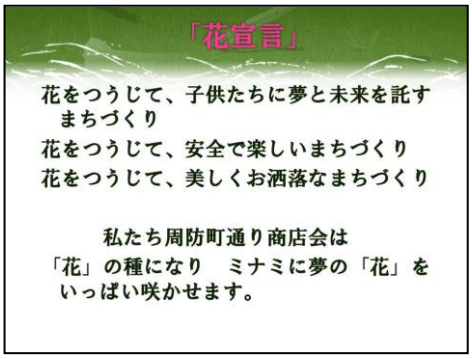
こうして出来上がった花壇には毎年、モンシロチョウですとかアゲハチョウ、バッタ、トンボなど、都会のど真ん中とは思えないほどいろんな昆虫と鳥が遊びに来てくれます。どこから来るのかしらと思っていたんですけども、今日、事例発表いただいたほかのところからも来ているんじゃないかなと夢が広がるなと思った次第でございます。

私たちも自然と人間との共生を掲げて、これからも花と緑あふれるまちづくりに励むことで花博記念協会の担い手の一員として活躍できるよう活動していきたい所存でございます。

最後に、記念撮影がございまして、花宣言、これは周防町通りのはなまつりのシンボルです。2010 年のものでございますが、子供たちが宣言している様子が動画でございますので、ちょっとご覧いただきます。

――動画――

【子供】　花宣言。花を通じて子供たちに夢と未来を託すまちづくり、花を通じて安全で楽しいまちづくり、花を通じて美しくおしゃれなまちづくり、私たち周防町通り商店街は花の種になり、ミナミに夢の花をいっぱい咲かせます、私たち、僕たちもミナミの町が花いっぱいになることを願っています。３年１組、カワニシタカシ。３年１組、ミナミユカ。礼。



――動画終わり――

【野呂】　このように子供たちが暗唱してくださると、はなまつりが一気に魔法の力のように盛り上がるんですよね。今年もやって良かったなと思える瞬間でございます。

あと、最後に、はなまつり中の町の様子を動画でまとめておりますので、ご覧ください。

――動画――

【松村】　どうもありがとうございました。

講評

田中　晃代
（近畿大学　総合社会学部　専任講師）

こんにちは。近畿大学総合社会学部の田中と申します。よろしくお願いいたします。

皆さんには、本当にすてきな発表を、聞かせていただきまして、ありがとうございます。いつもこのような市民の方が発表する会に伺わせていただくと、元気をもらって帰ってきます。

私の専門ですが、都市・まちづくりという分野です。大学では総合社会学部の中に環境系専攻がございまして、その中の地球環境コースと都市・まちづくりコースと２つのコースがありまして、私は都市・まちづくりコースです。特に市民参加型のまちづくりということで、市民さんが一緒になって、行政、あるいは企業と一緒に協働のまちづくりを進めていくという、そういうプロセスを研究しています。もう二十数年ぐらい前から、ずっと研究をしていまして、当時から市民参加という言葉がありましたが、参加でなく主体、「市民主体」のまちづくりですということを言い続けてきました。今日のご発表の中にも既にもう 20 年以上も活動されている、実績のある方たちがいらっしゃいまして、私は、言い続けているだけでは駄目だなというふうに、感じた次第です。ようやく「市民主体のまちづくり」が到来したのだという思いで、いっぱいです。

さっそくですが、パネル展も拝見させていただき、発表を伺いまして、感じたことを、今から述べさせていただきます。

まずご発表の中で、幾つかキーワードが出てきました。１つは「コミュニケーション」、それから「人間関係の構築」、「相互理解」、「体制づくり」、「ノウハウの伝授」、最近見える化という言葉がはやっていますけれども「プロセスの明示化」、こういうような言葉がいろいろと飛び交っております。これは、すごいなと思いましたのは、実は、私は大学で市民社会と新たな公共という講義を受け持っていまして、これからはガバメント（統治）でなく、ガバナンス（協治）だよと話しております。ガバナンスというのは、産も官も学もＮＰＯも地域団体も、すべての個人を含めて、いろいろな主体がかじ取りをしている中で､様々な活動がされているのですけれども、様々な人が政策とか計画に携わる場合に、やはり必要になってくるのが「調整能力」とか「ネットワーク力」というものですよというふうに、学生には申し上げております。こういうふうにガバナンス論の中では、「調整能力」とか「ネットワーク力」、こういうものがとても大事だよということを常々言っておりました。今日は私に代わ

って発表された方々が、「調整能力」や「ネットワーク力」の根幹となる「コミュニケーション」「人間関係の構築」「相互理解」「情報やプロセスの明示化」などのキーワードを述べてくださったので、もっともだと感じております。

以上のことから、基本は人と自然の共生を達成するためには、やはり人と人の共生というのが、基本じゃないかなというふうに実感しております。今日、緑という大きなテーマがあったのですけれども、実は緑は、「福祉」とか「景観」、「防災」、「防犯」、「環境」、これらのすべての分野に関して副次的な効果を生み出しているものだということで、やはり山積している地域課題を緑という軸で解決できそうじゃないかなと確信できました。これは、まさしく「まちづくり」という発想だと考えております。

最後に、申し上げたいことがあるのですけれども、最近、「プロボノ」という言葉、皆さん、ご存じですか。「プロボノ」というのは、「プロボノパブリコ」というラテン語ですけれども、プロの専門家が社会貢献活動をしているような状況です。ただ、普通のボランティアとちょっと違うのは、例えば、大企業のマーケティング部の部長さんがＮＰＯのマーケティングの戦略に携わるとか、例えば広告代理店の仕事をしておられる方が、まちにいろいろ眠っている資源をつなぎ合わせて、まちのプロモーション活動をするというような、そういうボランティアもされていたり、こういう専門家がボランティアをするという動きが最近、活発になってきています。数年前は「プロだから、プロの仕事をしっかりしたらよい」という発想もございました。私も、まちづくりの現場に出かけたときには、「あなた、もう本業、しっかりしなさい」というように怒られたこともありましたが、これは緑の分野でも同様かと思います。私も地域で緑化活動をやっていたことがございまして、そのときも、やはり樹木医さんであるとか、緑化の専門家であり計画プランナーの方が、偶然、友人でおりまして、一緒に活動しましょうということで、地域貢献を専門家同士で実施したことがございます。こういう動きは、単に貢献するだけではなくて、やはり自分自身のキャリアアップにもなるという結果ですので、ただ社会、地域に貢献するだけではないというのを、その時に強くに感じたわけでして、私自身もそれを実感しております。そういうことで、今日いらっしゃっている皆さんも、本当にプロの仕事をされていてボランティアをされているという方も、たくさんいらっしゃると思いますので、そういう意味では、この緑のテーマというのは「プロボノ」が活躍できる場所じゃないかなということを感じております。

それから、こういう事例発表とか交流会というのは、とても大事なのですね。一堂に皆さんいろんな分野の方が会するわけですけれども、新たなプロジェクトが生まれる場なのです。実は昨日、午後に、ある市の中でまちづくり助成報告会というのがございました。私は審査委員でしたが、その場でも報告会でみんな発表しました。その後、交流会の場で団体さん同士が、一緒にプロジェクトを立ち上げないかということ

で、その場で、新しいプロジェクトが出来上がったというようなことを聞いております。

このように、本当に交流会というのは新しいものが生み出される場所なのですね。ある市では婚活というテーマをもとにまちづくりをやっておられまして、最初、私たち審査員は、「婚活」って何でまちづくりにつながるのかということで、ちょっとこれは助成対象となるのかどうか疑問だということを言っておりましたのですけれども、実は、婚活というのは、お互い、結婚を対象にして、仲良くなれば結婚し、その地域にずっと住み続けるという、いわば定住人口を増やし地域を活性化するということを目的にされた活動でして、そういう活動が、例えば、その地域の田園風景を守る活動と連携しながら、婚活と田園風景を守る、あるいは歴史・文化を守る、緑・環境を守る、そのような活動と、どんどんつながっていったということを見てきております。今日も、この後、交流会があると伺っております。新しいプロジェクトが、ここからまた生み出されることを、私は、期待しております。

今日は本当にいろいろ楽しい活動を聞かせていただきまして、どうもありがとうございました。

【パネル展示】

① 大阪信愛女学院短期大学　（大阪市鶴見区）
～フラワーカーペット 植物を通した学びや社会参加について～

当大学では、園芸療法士認定資格講座を設け、その育成を行っています。園芸療法は、人の心身の健康を多角的にとらえ、特に病や障がいの二次的な症状としておこる心身の困難さや、社会復帰に向け植物や植物に関する諸活動を通してサポートします。また、植物を通した多世代交流、多文化交流から社会的、教育的、職業的リハビリテーションの視点でサポートを目指します。2012年春には当短期大学としろきた福祉作業所が協働し、チューリップの花びら30万枚を使った「鶴見緑地フラワーカーペット2012」の運営をお手伝いしました。

② NPO 法人 共生の森（大阪府堺市）
～埋立地でゼロから森づくり １本の木からはじめよう～

大阪湾にのぞんで広がる産業廃棄物処分場･堺第７－３区において、１００ｈａの「共生の森」づくりに取り組むＮＰＯです。市民・ＮＰＯ・企業・行政が力をあわせて、１００年の森づくりを進めようという大阪府の呼びかけで開催されたワークショップに参加した市民が中心となり、平成２０年にＮＰＯ法人を設立。以降、森づくり基本計画の提案、植樹活動や観察会の指導やモニタリングなど、森づくりの中心的な役割を担っています。

③ 一般財団法人大阪府公園協会 服部緑地管理事務所（大阪府豊中市）
～服部緑地の利用促進と地域活性化～

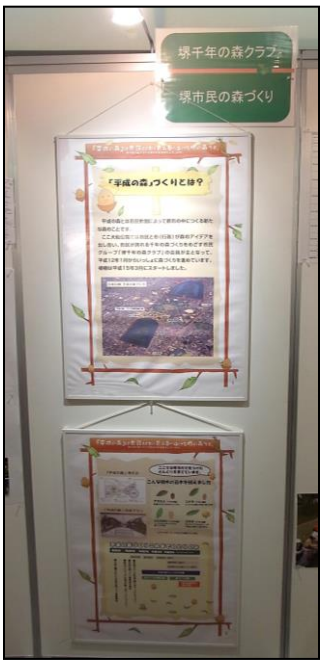
服部緑地では、服部緑地「みどり・文化・地域」を育てる協議会を設置しています。これは、園内の各施設・団体及び関係団体が連携し、公園全体の持続的な活性化を実現し、公園の利用促進を契機とした地域の活性化へ寄与するものです。音楽大学学生によるアトラクションやレストランの出店等、公園を舞台に地域の方々の連携、交流の場を提供しています。

④ 毎日新聞大阪本社（大阪市北区）
～学校ビオトープ「生態園をつくろう！」～

当社は、全国で最も早く「環境面」を創設しました。環境や科学の担当部署は「科学環境部」です。このように部名に「環境」を冠したのも最初でした。環境を守り、緑を増やすさまざまな取り組みを今後も応援していきます。小・中学校生態園づくりは、当社と花博記念協会、学校との３者協働で実施しているもので、毎日新聞では、紙面やホームページで募集告知をはじめ、実施校の取り組みや進捗状況を紹介しています。

⑤ 堺千年の森クラブ（大阪府堺市）
～堺市民の森づくり～

堺千年の森クラブは、大仙公園で整備される平成の森において市民による森づくりを進め、人と人、人と森とが支えあい、ふれあい、学びあう森づくりの輪をこどもたちに継承していくことを目的とし、堺市民が誇りうる「千年の森づくり」をめざし創設し、活動を続けています。



⑥ 鶴乃茶屋倶楽部　（大阪市北区）
～地域にゆかりのある「菜の花」でまちを彩る「菜の花の散歩道」活動について～

梅田、茶屋町・鶴野町をよくしたい、面白くしたい、と願い活動している地元住民・店舗経営者らの有志の集まりで「北梅田地区まちづくり協議会」の若手まちづくり塾として平成 18 年よりスタートしました。菜の花プロジェクトやエリアで開催されるキャンドルナイトやスノーマンフェスティバルなどのイベントなどにも参加して、まちの賑わいづくり、活性化に努めています。

⑦ 積水ハウス株式会社 設計部 大阪設計室（大阪市北区）
～「新・里山」都市のど真ん中の公開緑地で展開する人と自然のつながり～

「新・里山」は、2006 年夏、梅田スカイビル（大阪市北区）の北側にある公開空地（約 8,000 ㎡）に、地域に根差した在来種を植樹する積水ハウスの「5 本の樹」計画に基づき、他の地権者とともに造成したものです。

ここには、水田や畑、雑木林、竹林などを配しており、毎年、地元の幼稚園児や小学生、オフィスワーカーを対象にお米や野菜づくりなどの体験を実施しています。年を重ねるごとに野鳥や虫たちの種類や数が増えています。

⑧ ガーデンシティーコープ金剛東すみれ会（大阪府富田林市）
～ゆるやかな繋がりの中での花の散歩道～

マンションのエリアのみならず、市の遊歩道に四季折々の花を植え、花のまちづくり運動をしているボランテアグループ”すみれ会”です。インターネットで種蒔きクラブに入り、珍しい種を蒔いています。香りにこだわったばら・ジャーマンアイリス、それに芍薬や牡丹・クレマチスも増えました。春のラナンキュラスは見事です。国土交通省 都市・地域整備局 景観室の「景観まちづくり読本」にて事例として紹介されました。

http://www.geocities.jp/su3rekai/

⑨ 地球館パートナーシップクラブ（大阪市鶴見区）
～自然体験観察園調査隊の成果「自然体験観察園の生き物たち」～
～鳥が運ぶみどり、人が育むみどり … 大阪市東部域実生苗調査から～

「地球館パートナーシップクラブ」は、「生き生き地球館が、わが家！」と称し、大阪市立環境学習センター「生き生き地球館」を支援し、地球館とともに活動するグループです。大阪市内をフィールドとして、都市のみどりや生き物の調査をはじめ、鶴見緑地の自然体験観察園での農事を体験しながら、エコライフや環境問題について楽しみながら学んでいます。平成 22 年度「大阪市環境表彰」を受賞しました。

⑩ ヨーロッパ通り周防町商店会（大阪市中央区）
～平成２４年度はなまつり～

ヨーロッパ村周防町通りは約 30 年前「都市景観形成モデル事業」の日本で第１号として建設省（当時）より大阪市が指定を受け電柱の地中化を行いました。また、大阪市と「花と緑の協定」のもと日々緑化推進を図っております。通りに植樹されたはなみずきは春に赤や白の可憐な花をさかせ、31 か所の花壇には年３回の植替を行い常に季節の花を咲かせています。私たちは景観美化を守る精神継承のもと「花と緑にあふれた街」を目指しています。

⑪ チャリティーネット森が好き！
～あなたの想いが森を守る ボランティアの寄付ネットワークができました～

森林の保全や生物多様性の確保に関心が集まる中、直接は森づくりなどの活動に参加できない都市住民等にも森に関わることのできる仕組みを作るため、大阪府域の各地で森林保全に取り組む４つの団体の呼びかけでつくった寄付ネットワークです。

人工林の手入れ、里山保全、子供向けの里山体験プログラム、チョウの舞う森づくりなど３０を超える活動をまとめて、興味のあるものを選んで寄付を呼びかけています。

⑫ ボランティア団体 癒しの園芸の会（大阪市都島区）
～癒しの園芸の会の活動について～

“心に花を咲かせましょう”“花とみどりでつながろう”を合言葉にして、植物を介して、人と植物だけでなく、人と人がつながり・支え合える社会を目指しています。「癒しの園芸講座」を活動基盤にして、実習花壇・農園の維持管理作業、各地での園芸福祉活動のサポートや、花壇などの基盤整備に取り組んでいます。

詳細は、当会ホームページ http://ht-iyasi.org/まで。

⑬ 京都光華女子大学 環境ボランティアサークル「グリーンキーパー」（京都市右京区）

～花と緑が大好き！こどものための実践的環境教育～

『グリーンキーパー』は、京都光華女子大学の学生からなる環境ボランティアサークルです。学内における緑化活動の他、最近では、学外へも活躍の場を広げつつあり、特に、京都市行政と連携した事業では、社会貢献の意義を学ぶと同時に、社会との実際のコミュニケーションを通じて、自らの社会人基礎力の向上にもつながっています。

私たちは、このように社会人基礎力と環境問題への強い関心、さらに、女性に特有のやさしさや豊かな情操を兼ね備えた女子学生からなる環境ボランティアサークルです。

⑭ 大和リース株式会社（大阪市中央区）

～ウェルカムガーデン新大阪 「大阪花屏風」～

大和ハウスグループの唯一の緑化部門、大和リース環境緑化事業部は「ECOLOGREEN（エコログリーン）」というブランドロゴを掲げ、「緑が、街を変えていく。」のメッセージのもと、壁面緑化、屋上緑化等の建物緑化だけでなく、外構緑化や室内緑化と総合的に緑化をご提案させていただいています。新大阪駅前の「ウェルカムガーデン新大阪」は、みどりの風を感じる大都市・大阪の一環として当社が企画、設置したものです。

⑮ 特定非営利活動法人 福祉のまちづくり実践機構（大阪市浪速区）
～長野公園を中心とした金剛山系の樹木と植物の保全活動～

障がい者や高齢者が地域で生き生きと暮らしていけるようなまちづくりを実践するＮＰＯ法人です。特に、高齢者施設などでの園芸福祉の推進、エル・チャレンジと連携した府営公園での障がい者の就労支援の取り組みなど、「福祉」と「環境」をつなげるような取り組みを推進しています。

⑯ 明治連合振興町会 阿波座南公園ビオトープクラブ（大阪市西区）
～みんなで知恵あわせ 公園ビオトープでつながる地域・学校・行政～

平成 14 年度、大阪市ゆとりとみどり振興局の公園整備事業「みんなのわくわく公園づくり」により、阿波座南公園では、ビオトープをテーマにした公園の改良を市民参加型の手法で行いました。

平成 15 年度からは、地域の連合振興町会、子ども会、小学校、西部方面公園事務所、専門家等が協働で維持管理や活用の取り組みをすすめ、それぞれができることを担いあう「知恵あわせ」により子どもや大人の環境活動を支えています。

⑰ 尼崎南部グリーンワークス（兵庫県尼崎市）
～すき間緑化でみどりのまちづくり～

当団体は、平成 14 年に策定された尼崎 21 世紀の森構想の「人と水と森との新しい環境創造のまちづくり」を活動の契機としています。尼崎南部は工都として発展し、緑地は点在するものの、まとまった緑地が少ないです。そこで都市のちょっとした空間を利用し「都市と自然の共生」を目指した緑化（すき間緑化と呼んでいます）を進めています。またすき間緑化を広く普及するために都市緑化、生物多様性をテーマに見学会、フォーラム等を開催しています。

⑱ 城東区はなびとコスモスタッフの会（大阪市城東区）
～1 粒の種から花のあふれるまちづくり～

当会は、大阪市が認証する緑化リーダー、グリーンコーディネーターが中心に城東区民 60 名程で結成されている緑化ボランティアグループです。平成 19 年 3 月より「城東区種から育てる地域の花づくり支援事業」に参画し、以後年間 3～4 回の播種、約 2 万株の育苗、地域の花壇 30 か所（区役所や福祉施設、学校、公園等の公共ゾーン）への植栽を行うなど、花のあふれるまちづくりのための維持、管理、緑化イベントの開催等の活動を続けています。

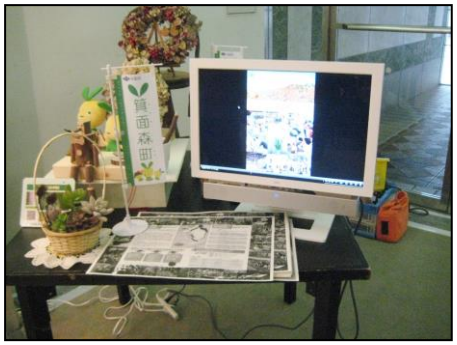
⑲ 特定非営利活動法人 おおさか緑と樹木の診断協会（大阪市都島区）
～樹木医の活動紹介～

当会は、全国の樹木医で組織する『日本樹木医会』の、大阪府支部会員が主体となって設立しました。協会は、自然環境の再生が望まれている都市環境のなかで、潤いや癒しをもたらしてくれる緑や樹木と人々が上手に共生すること。そのために、身近な公園や街路などの樹木の適正な維持管理をはじめ、傷んだ樹木の診断治療などの処置、さらにそれらの技術を普及する事業などを行っています。また、保全環境が危うい地域の巨樹・古木の生育等の専門的な調査を行い、広く人々に周知し、貴重な緑の伝承と保護、愛護精神を啓発する活動も行っています。

⑳ 特定非営利活動法人 とどろみの森クラブ（大阪府箕面市）
～クラブ活動目的紹介・里山自然保護活動・地域との自然体験活動～

特定非営利活動法人「とどろみの森クラブ」を平成 19 年 2 月に設立し、大阪府箕面市森町に拠点を置いて活動を続けています。

この地は、昔からある深山を抱えた里山が残されていて希少な動植物が多く生息する地域です。箕面森町は、3 共生「自然環境・地域・多世代」をテーマとして開発されていますが、このコンセプトに賛同する近隣地域の人達と協働して自然と人が豊かに共生する環境づくりを目指しています。



開催概要

１．名　称　第１回みどりの交流広場

２．日　時　平成 25 年 2 月 17 日（日）

３．会　場　花博記念ホール（第１部：事例発表会）
生き生き地球館　資料室（第２部：交流会）

４．趣　旨　みどりの風・生き物の道の浸透・推進に伴う植樹運動や、他地域での緑化活動、ビオトープづくりなど様々な環境創出や保護に携わっている市民、企業、団体等の発表の場を設けることにより、情報の共有や協働のネットワークを促進し、共生の輪を広げる。

５．次　第　13:10～16:15 事例発表会
16:30～17:30 交流会
12:00～17:30 パネル展示

６．主　催　財団法人国際花と緑の博覧会記念協会

７．協　力　生き生き地球館

８．後　援　大阪府、大阪市

９．参加者数　事例発表会：約 100 名
交流会：約 50 名

第１回みどりの交流広場
平成 25 年 2 月

発行　財団法人国際花と緑の博覧会記念協会
〒538-0036　大阪市鶴見区緑地公園 2-136
TEL：06-6915-4513　FAX：06-6915-4524